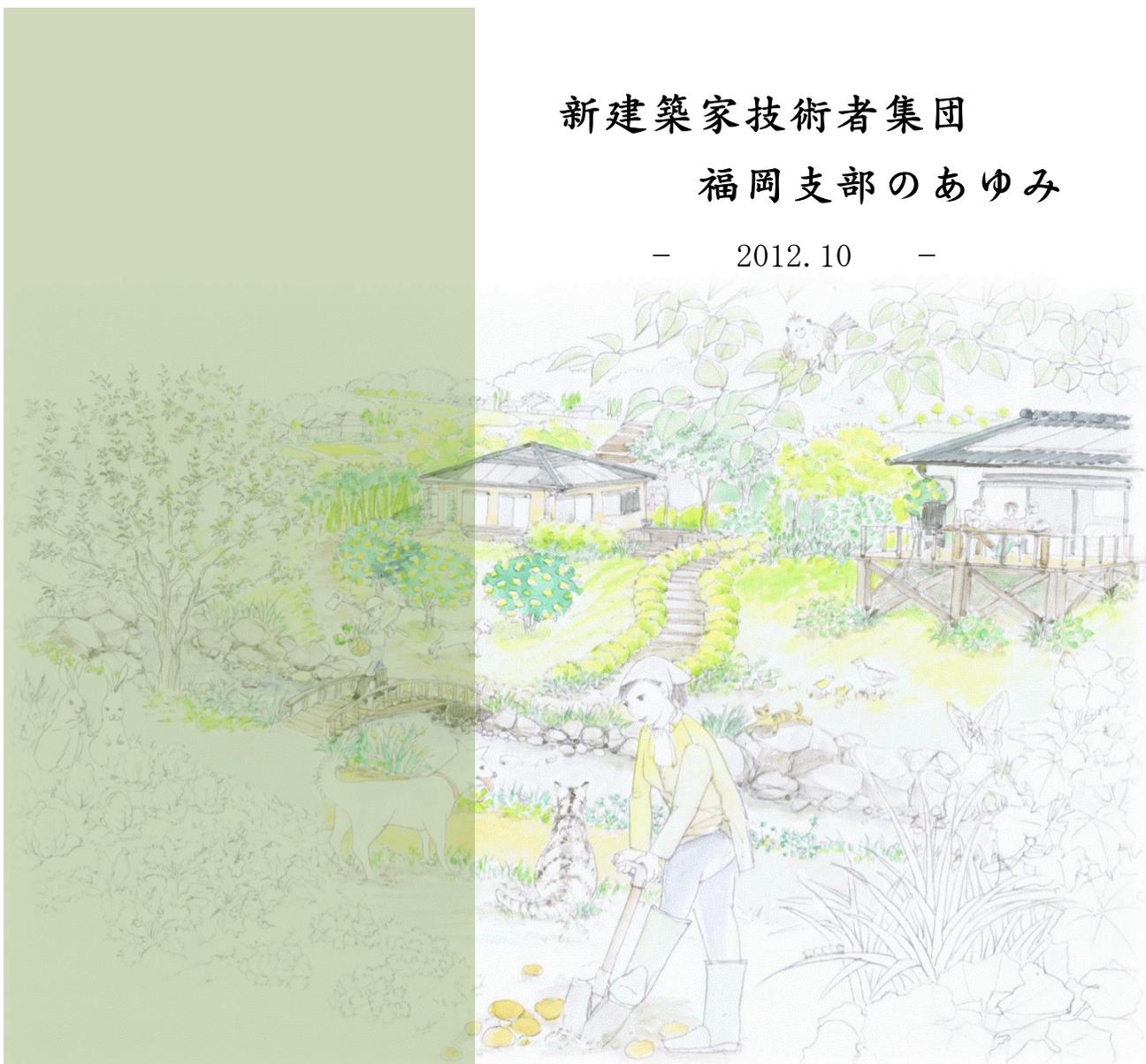


# 新建福岡40周年記念

新建築家技術者集団

福岡支部のあゆみ

- 2012.10 -



40年前、まだこの様な風景は福岡市の郊外のあちらこちらに残っていたと思います。この40年で失ってしまった里山の風景、もう一度取り戻したい暮らしの風景を絵にしました。新しい技術で可能になったエネルギー循環型の建物、古い知恵を活かした雨水利用の自然農法無理をしない地産地消の様々な生き物と豊かな緑に囲まれた暮らし。奪い合ったら貧しくなるばかり、分け合ったら足りることをあの3月11日からの日々で学びました。(圓)

新建築家技術者集団福岡支部が誕生して 40 年が過ぎました。この間、福岡支部では曲がりなりにもいろいろな活動を行ってきました。

新建は「住まうひと、使う人の立場に立った住まいづくりそしてまちづくり」をめざした運動団体です。

東日本大震災からの生活の再建や、働いても満足な住生活をおくれないなど、建築とまちづくりに課せられた課題は急務です。

今年の 2 月には福岡支部発足 40 周年記念事業を行い、他の団体からも多数ご参加をして頂きました。

これからも、建築やまちづくりを志す多くの仲間と共に、運動を進めていきたいと思っています。皆様のご支援をお願いいたします。

## 目 次

P1	ごあいさつ
P2	新建福岡 40 周年記念誌発行にあたって
P3	プロローグ 全国研究集会にむかって
P5	2010 第 27 回新建全国研究集会 in 福岡
P11	連続講座「木造住宅・構造の基本」・その後
P13	新建唐津慰安旅行にかたって
P15	2011 新建学校「三沢浩講演会」
P17	2012 新建学校「福岡支部 40 周年記念講演会」
P21	新建福岡支部 40 年のあゆみ
P23	新建福岡支部の活動（2000～2012）
P25	新建福岡支部 40 周年に思う－会員の声
資料編	
P31	新建福岡支部設立の経緯と最初の 10 年の歩み
P33	日本における建築運動の歩み
P35	新建築家技術者集団のあゆみ（全国編）

新建福岡支部は 1971 年 2 月 21 日に設立され、昨年 2 月に 40 周年を迎えたのですが、一昨年の 11 月に第 27 回全国研究集会 in 福岡が開催され、その準備に全力が注がれ、1 年遅れの 10 周年記念行事になりました。福岡での記念行事は記念講演会および記念パーティの開催と併せて記念誌の発行も企画され、今回の発行に漕ぎ着けました。

一昨年 8 月に東京で開催された新建設立 40 周年記念シンポジウムで、山本厚生副議長が 40 年の歩みを 3 期に分けて的確に分かりやすく総括されています(建築とまちづくり No393 号)。今、これを読みながら全国の仲間と共に歩んだ福岡での 40 年の歩みに思いを馳せています。福岡では 10 年毎に記念事業をやってきましたが、10 周年では詳細な「新建ふくおか 10 年史」(青焼き原稿)を纏めました。20 周年では簡単な年表の発行に留まりましたが、30 周年では機関紙「新建ふくおか」の 100 号と重ねて「30 周年記念号」が発刊され、会員の浜崎裕子さんの歴代の事務局長や古いメンバー達にインタビューした興味深い記事や編集員の努力で 30 年の歩みが良く整理された記念誌でした。

40 周年では昨年暮れに忘年会を兼ねたプレ企画がありましたが、健康上の理由やさまざまの事情を抱えて、古い会員の参加は 30 周年の時に較べて大幅に少なくなりました。世代交代が大きく進んだことを感じさせました。

福岡の歴代事務局長を見ても、現在は 7 代目ですが、何れも新建に並々ならぬ大きな情熱を注ぎ込みました。2 代目、3 代目の方々は、高齢とは言えない時期にこの世を去り、5 代目、6 代目の方々もやむを得ない事情で今は新建の活動から離れています。40 年という年月の重みをずっしりと感じるとともに、長い年月に亘って活動を継続することが如何に大変であったかを示しています。会を支えた彼らおよび歴代幹事の皆さんの献身的な働きのお陰で、これまで何とか活動を続けてくることができましたし、新建福岡の今があると感謝の念でいっぱいです。

この記念誌の発刊に併せて、これまでの支部活動の歴史を新しい会員にも知ってもらうために、今後、別冊として資料集を逐次作成していきたいと考えています。これまでの総会議案書や機関紙「新建ふくおか」或いは例会資料などを再度、分担して読み込み、重要と思われる資料については資料集という形で会員に配布できるようにしたいと思います。

40 年という長い年月をかけて日本の建築運動が全国組織および各県の支部組織を含めて営々と続けられてきたことは、もちろん歴史的にも初めてであるし、この間、果たしてきた役割や意義はたいへん大きなものがあり、私達の誇りでもあります。

山本厚生氏は新建の 40 年を第 1 期(1970~82 年)(創世と連帯)、第 2 期(1983~94 年)(自立と実践)、第 3 期(1995~2010 年)(参画とネットワーク)に分けて総括されていますが、第 3 期の始まりが阪神・淡路大震災の年であり、これからの第 4 期の始まりが昨年の未曾有の東日本大震災および福島原発事故の年でした。世界一の地震列島である日本の今後のあり方を、脱原発というこれまで真剣に考えてこなかった方向から構想するという新しい挑戦が求められている時です。これからの建築とまちづくりの方向を指し示すために、関連の多くの団体、組織との連携を強めながら、新建が果たしていかなければならない役割が、かつてなく大きなものであるという予感がしています。

## プロローグ

今回の新建福岡支部の40周年記念誌は、近年は一時活動が沈滞化していた福岡支部が主に2010年に開催された「全国研究集会in福岡」の準備への取組を契機として、再び積極的な活動に取り組む様になった過程を、「建築とまちづくり」誌に掲載された記事を中心に再構成したものです。

### 研究集会の準備状況 1（埼玉全国大会後）

2009年「建まち」誌より

久しぶりに参加させていただいた全国大会でしたが、例年と違い新鮮な出会いをすることもできて、大変元気をもらう事のできた貴重な大会でした。特に建まち誌上で勉強させて頂いている諸先輩方のお話を直接伺えた事、それから各支部の若手の会員の皆さんと交流を持てた事が、今回の大きな収穫でもありました。全国の各支部の近況報告と同様に、福岡の現在も経済不況のまっただ中です。その中で今後どのように建築活動に取り組んで行くのかを改めて考える機会となりました。

さて、今大会ではいよいよ来年には福岡においての全国研究集会の開催が決定しましたが、恥ずかしながら現在、福岡支部の準備状況はまだ全く進んでいない状態であるのも現実です。

研究集会の会場は「国立夜須（ヤス）高原青少年自然の家」を候補として検討しています。福岡市内から車で約1時間。一番近い公共機関の麓のバス停からも約10kmという自然豊かな環境（山の中?!）での開催となりますために、会場への交通手段の確保がかなり心配ではあります。

今回の開催会場の提案は、企画の中心となって頂く会員の片井氏からの提案です。少年自然の家で2日間じっくりと濃密な時間を過ごすことができます。新建の研究集会やセミナーの良さは、研究会終了後も続く飲み会にもあり、ホテルに別れて別々の部屋で離れた集まりとなるよりも、参加者全員が一晩じっくりと膝を交えて朝までも語りあうこともできる環境こそが魅力ではないか。

普段はなかなかお会いできない代表幹事の方々や魅力ある講師の皆さんと、豊かな時間を一緒に過ごすことが、新建の魅力を福岡の皆さんにも伝えることになるのではないかと、この思いで提案されました。

既に11月の開催まで後1年を切り、準備もまだまだこれからですが、今後も状況報告を致して参ります。

（福岡支部）



## 研究集会の準備状況 2（全国幹事会後）

2010年「建まち」誌より

現在福岡支部では、11月20～22日の福岡での全国研究集会の開催に向けて実行委員会を組織しながら慣れない準備をすすめています。

一昨年の奈良研究集会での蓑原氏と片井氏の勢いから始まった今回の企画ですが、衰退化している支部の状況や全国との意識の差を埋める上で、失敗するかもしれないけれどやってみる価値はある、という積極的なのか消極的なのかわからないままに取り組んでしまった状況も事実ではあります。

実際準備を始めてみてわかりましたが、今まで各地の大会や研究集会でお世話になった全国の幹事の方々や開催していただいた支部の方々の苦勞さえ知らずに、慣れない状況に四苦八苦をしながら悪戦苦闘している最中です。

仕事の合間を縫っての活動となり、各自のモチベーションを高めることも難しい問題ではありますが、「新建の活動の良さは全国の活動を経験してみないとわからない！」という過去に全国企画に参加した経験者の言葉をふまえ、期待感を高めながら自分たちも楽しんでいこうという意識で取り組んでいます。

11月終盤、冬も真近の季節ではありますが、ぜひ福岡の地で全国の新建の方々とゆっくりと膝を交えながら、心あたたまる濃密な時間を過ごすことができると、支部会員一同は心待ちにしています。

これから2ヶ月で準備することはまだまだ山ほどありますが、全国の会員の皆様や福岡をはじめ九州各地から参加していただける参加者の方々が、心から学び楽しんでいただく状況をつくるべく、実行委員会を中心に今後も準備を進めていきたいと思えます。

ぜひ多くの会員の皆様、また会員でない皆様もお誘いあわせのうえ、九州・福岡の地を心ゆくまで楽しんでください。お待ちしております！  
(福岡支部実行委員会)



研究集会に向けての実行委員会や準備の状況



## 新建設立40周年

### 第27回 全国研究集会 in 福岡

日 時：2010年11月20日～22日  
 会 場：筑前町〈夜須高原青少年自然の家〉  
 参加者数：約130名超

#### 《研究集会全体の報告》

新建設立40周年を記念した第27回全国研究集会は、11月20日～22日、福岡県朝倉郡筑前町三箇山「国立夜須高原青少年自然の家」で行われました。当初、福岡という首都圏からは遠隔の地での開催、しかも福岡市内から離れた山の中の会場ということで、参加者数がかかなり心配されました。しかし最終的には130名を超える参加者があり、新建の全国企画の中でも歴史に残る大成功といってよいほどの盛況となりました。参加者の支部内訳は、東京が20名、京都14名、その他の県は各県数名にとどまりましたが、地元福岡からは支部会員数44名を大きく超える参加がありました。

会場の選定・設営から講演会、懇親会、見学会まで、分科会設定と資料集作成を除いてはすべて地元の福岡支部実行委員会の企画運営であり、その実行委員会には会員外も含まれていたというのですから、その盛り上がりには目を見張るものがありました。今回の成功の要因はひとえに福岡支部が支部をあげて取り組んだことにあります。その非常な熱意、若手から70代の大ベテランまで全員力を合わせたチームワークと行動力に、最大限の敬意を表したいと思います。

#### ■ 初日

片方副議長の開講挨拶の後に、二つの記念講演が行われました。第一部は福岡支部の古くからの会員である福永博氏の「300年住宅への想い」。福永氏は長期優良住宅が制度化された現今、一躍脚光を浴びる存在となっています。第二部は池田武邦氏の「超高層から茅葺きへ」です。日本設計で霞が関ビルをはじめとした超高層ビルを手掛け、現在は一線を退いて長崎県西海市に建てた茅葺きの自邸に暮らす池田氏は、戦争体験から自然環境保全や持続可能社会に思い至るまでの経験を、肩の力を抜いた語り口で話されました。至近のテーマと地域性を鑑みた、福岡支部の知恵を絞った講師とテーマ選定に妙味を感じました。

夜は賑やかに懇親会が行われました。福岡支部会員・川崎さんの娘さんによる中国琵琶が印象的でした。



## ■ 二日目

早朝から分科会が行われました。分科会は参加者が二つのテーマに出席できるように12テーマをA・Bの2グループに分け、それぞれ午前と午後に行いました。研究報告は前もって作成する資料集に収録しました。問題提起を含め、資料集には65題の報告が掲載され、事前にしっかりした資料集を用意する方式は近年定着したと言えます。各分科会の討議時間は4時間前後で、若干時間が足りないほど活発な討議なされました。

夜は狭いバンガローにすし詰めになって福岡支部手作りの料理で懇親会となりました。大方ことを成しえた開放感も手伝って初日以上の盛り上がりでした。



### 《懇親会の報告》

一言で言うと「大成功」でした！全国の皆さんからの感想をいただいて福岡支部全員感動をしております。脳みそに汗をかき、身を粉にして働いた甲斐がありました。

「朋あり遠方より来る、また楽しからずや」。訪ねてきてくれた友人に最大限のおもてなしをするのが九州人のルールです。多少の犠牲を払おうがヤセ我慢しようが、客人を喜ばせてなんぼ。そんな風土が九州・福岡にはありますが、今回もまさしく支部全員がその気持ちで準備に向かいました。一日目の懇親会での川崎絵里さんの中国琵琶。その音色を皆さんに届けたい、絵里さんには心地良く弾いてもらいたい。その気持が「灯りプロジェクト」と銘打って和紙に一言メッセージを書いていただいて提灯となった次第です。

料理に関しては会場である夜須高原レストランでのオードブルと鍋の試食会を二回。それでも二日目の懇親会に出す鍋の味がどうしても意にそぐわず、だったら自分たちでつくろうよと鍋だけの試食会を一回。計三回、自腹で行いました。数量を注文するときも、当初はそんなに食べないだろうと少なめに注文するはずが、いざ注文する段になって、もし足らなくなったら末代までの恥と、結局人数分を頼むことに。一日目のオードブルは余りましたが二日目の鍋はほぼ完食でした。その二日目の会場準備と鍋づくりには午前・午後とも分科会にも出ずに立ちっ放しで準備に励んだ人たちの姿がありました。そして懇親会中も裏方で給仕に徹する姿が。

そんな「思い」のこもった懇親会に「良かった！」との声をいただき、一同安堵で胸を撫でおろしています。と同時に、心より御礼申し上げます。福岡まで来て、驚きの山の中までお越し下さり、ありがとうございました。

そして、また福岡へいらっしやい！  
(福岡支部・懇親会隊長・上田剛)



### ■ 三 日 目

朝から2つのコースに分かれ、マイクロバスに分乗して見学会が行われました。両コースとも中身の濃い内容で、気配りのされた手配により快適な見学を楽しむことができました。

#### ■■■A. 博多周辺コース (9:00 ~ 15:00) ■■■

主な見学施設：300年住宅、キャナルシティ博多、櫛田神社、博多町家ふるさと館、聖福寺、東長寺（五重塔現場見学）

##### ≪ スケジュール ≫

- 9:00~10:10 バス移動(九州縦貫高速道は利用せず、福岡都市高速経由)
- 10:10~11:10 300年住宅・「西鉄サンリヤン西新ギャラリー」  
レクチャーと見学
- 11:00~11:40 バス移動(キャナルシティ博多へ)
- 11:40~12:40 キャナルシティ博多(食事時間を含め1時間の自由行動)
- 12:40~12:45 徒歩で櫛田神社へ
- 12:45~12:55 櫛田神社見学
- 12:55~13:00 博多町家ふるさと館へ
- 13:00~13:40 博多町家ふるさと館(見学40分)
- 13:40~13:50 徒歩で聖福寺へ
- 13:50~14:10 聖福寺見学
- 14:10~14:15 徒歩で東長寺へ
- 14:15~14:55 東長寺見学と建設中の五重塔現場見学
- 14:55~15:00 東長寺バス専用駐車場に停車中のバスに乗りし、博多駅へ

##### ≪ 備 考 ≫

- 博多案内は元新建メンバーで、博多案内ボランティアセンター所属の中野さん
- 東長寺五重塔 現場見学：松井建設現場事務所 現場代理人 北原さん



#### ■■■B. うきは・吉井コース (9:00~17:00) ■■■

主な見学施設：吉井町並み散策(白壁通り、蔵しっく通り)、一般公開中の居蔵の館、鏡田屋敷、町並み交流館商家内コスモス16 (Tel.0943-75-2572)にて昼食その後 自由時間(自由に吉井街並みを散策)  
国指定有形文化財「楠森河北家住宅」、田籠地区茅葺民家群の内の「くど造り民家」平川家(国重文)見学

##### ≪ スケジュール ≫

- 9:00~10:00 バス移動(吉井観光協会・土蔵無料駐車場へ)
- 10:00~12:00 観光協会土蔵徒歩で出発、白壁と清流の町・吉井町並み散策(この中に町家の修理事業中1軒の見学も含む)他
- 12:00~13:20 町並み交流館商家内コスモス16 (Tel.0943-75-2572)にて昼食その後 自由時間(自由に吉井街並みを散策)
- 13:20 観光協会「土蔵」に集合
- 13:20~13:30 バス移動、「うきはアリーナ」へ
- 13:30~13:50 「うきはアリーナ」見学(外部のみ)
- 13:45~14:00 バス移動、国指定登録有形文化財「楠森河北家住宅」へ
- 14:00~14:45 楠森河北家住宅見学
- 14:45~15:05 国重要文化財 くど造り「平川家」へバス移動途中、「つづら棚田」を見学
- 15:05~15:30 平川家見学
- 15:30~17:00 はげ並木経由し、うきは市役所(歴史民俗資料館)、朝倉IC経由し博多駅へバス移動



## ■見学会B＝うきは・吉井

研究集会三日目、あいにくの雨模様。バスに23名、後続の乗用車4台に7名、総勢30名で出発です。

夜須高原青少年自然の家を後に小一時間ほどで吉井町に到着。当日は月曜日で市営の施設はすべて休館なのですが、見学会のために特別に開館していただきました。吉井案内人の星野さん、設計士会の金子さんに吉井町の伝統的建造物群保存地区について説明をいただきます。

豊かな水や、筑後平野の農産物が豊富な地方で、昔はとても金持ちのまちだったとのこと。大正時代には蒸気機関車も通っていたほどで、今ある白壁の家々はその富の象徴だったのです。あの「五庄屋物語」で知られる大石堰から取水された水路は吉井の発展を支えると同時に、白壁の町並みの一角としても存在し続けています。平成8年、福岡県で初の重要伝統的建造物群保存地区に指定、市では修理修景に補助金を出し、一五〇件以上保存しているそうです。

「鏡田屋敷」「居蔵の館」などを、案内人が時間の心配をするくらい皆さんじっくりと見学です。防火のために「分限者どん」が軒先まで漆喰で塗り込めた見事な鰻絵もあちこちで見受けられます。参加の皆さんも傘をさしながらそこここをめぐりました。町並み交流館となっている建物は大きな梁の大空間を持つ立派な伝統的建造物で、そろって昼食をいただきました。

午後からはうきは市文化財保護係の寺嶋さんに案内していただきました。

最初は木造体育館のうきはアリーナを外部から見学。ここでは管理者として、使う地元側の意見を取り入れてほしかったと、少し苦言を呈していらっしゃいました。

次に向かったのが、国指定登録有形文化財・楠森河北家です。河北家当主に入口までお迎えいただき、お話を伺いました。世情や価値観の変化の中、どうか先祖から続く行事を受け継ごうと、「自分の目の黒いうちは……」とおっしゃる姿が印象的です。中でも壁結いと呼ばれる竹垣は昔ながらのもので、周囲の協力もあり北部九州で残っているのは、ここだけだそうです。主屋のほかに米蔵・器蔵いくつもの建物が残されています。今でも昔ながらの錠前を使っているそうで、皆さん興味津々です。帰り際、河北家で作られているお茶や銀杏をお土産に求めバスに乗り込みました。紅葉の美しいこの時期、昔の建物はしっかりと溶け込んで、人間を得も言われぬ気持ちに包み込んでくれるような気がします。

続いては国の重要文化財・平川家です。「くどづくり」と呼ばれる見事な茅葺きの屋根は圧巻です。ただ維持保存と住み続けることは難しいらしく、住まい手の姿はありません。「伝建の指導をされた先生に『いくら建物を残すことが大切と言われても、先生は便利なマンション住まいですもんね！』と飲んだ席では話しました」とは前述の寺嶋さんの言葉です。

時間の都合で残念ながら「つづら棚田」や「はぜ並木」は見ることはできませんでした。後続の車が迷子になるハプニングもあり、運転手ははらはらするなか、うまく渋滞を抜けきれて、時間内に無事博多駅に到着することができ、安堵しました。

(福岡支部・渋田あい子)

■まとめ

分科会を中心とした研究集会の核心については、全国の会員の協力により内容豊富な資料集が事前にできあがり、分科会での議論をより深めることができたと評価しています。また資料集により内容をしっかりした記録として残すことができました。それでも当日持ち込み資料がかなりありましたが、せっかくの貴重な報告が後に残りにくいので、できるだけ資料集に掲載するようにしたいものです。

分科会を午前午後に分け、二つの分科会に参加できるようにしたことは成功だったと思います。分科会によっては議論の時間が不足したところもあったようですが、担当者の運営にかなり影響されるところです。テーマの設定とともに分科会の運営についてはさらに検討を重ねることが必要だと考えています。

最後に、福岡支部の精力的できめ細かい準備による様々な趣向に参加者は十分堪能させられました。そのことに再度心から感謝しなければなりません。これが福岡支部活性化につながることを切に希求するものです。



■■ 当日スケジュール ■■

	1日目 2010年11月20日(土)	2日目 2010年11月21日(日)	3日目 2010年11月22日(月)
7:30		朝のつどい: 7:30~ 【つどいの広場・雨天フレイホール】	朝のつどい: 7:30~ 【つどいの広場・雨天フレイホール】
8:00		朝食 8:00~8:30 【本館 3F・レストラン】	朝食 8:00~8:30 【本館 3F・レストラン】
9:00		移動	清掃
10:00		分科会 A 9:00~12:30 ①建築法体【ラウンジルーム 6】 ②地域住宅【ラウンジルーム 2】 ③風土と環【ラウンジルーム 4】 ④ストック【ラウンジルーム 3】 ⑤都市(再)【ラウンジルーム 1】	↑ 解散・見学会へ Aコース 博多周辺 9:00~15:00 (博多駅周辺で終了)
11:00			
12:00			
13:00		昼食 12:30~13:30 【本館 3F・レストラン】	
14:00	受付 13:00~14:30 【本館 3F ロビー】	分科会 B 13:30~17:20 ①伝統構法【ラウンジルーム 1】 ②品質確保【ラウンジルーム 10】 ③伝統的町【ラウンジルーム 2】 ④福祉とま【ラウンジルーム 8】 ⑤子どもの【ラウンジルーム 6】 ⑥住まいづ【ラウンジルーム 4】 ⑦新たな集【ラウンジルーム 3】	↓ Bコース うきは・吉井 9:00~17:00 (博多駅周辺で終了)
15:00	開講式・ガイダンス 【本館 3F・ラウンジルーム 4】		
16:00	記念講演 【ラウンジルーム 4】 第一部 講師 福永 博氏		
17:00	(休憩 16:30~16:50)		
18:00	第二部 講師 池田 武邦氏	閉講のまとめ 17:30~18:00 【本館 3F・ラウンジルーム 4】	
19:00	(休憩 18:20~18:30)	入浴等 18:00~19:00 【本館 2F・浴室】	
20:00	分科会ガイダンス		
21:00	入浴等 19:00~20:00 【本館 2F・浴室】	懇親会【センターホール】	
22:00	懇親会 【本館 3F・レストラン】 ・アトラクション (中国琵琶演奏) ・各支部紹介	↓ ↓ ↓	
	二次会【ロッジ A・B】	二次会【センターホール】	
	↓	↓	

※[]は各会場

## 《感想》

### ■一般のスタッフで参加して

私は今回の全国研究集会に一般からのスタッフとして参加しました。全国の皆様と関わるのは初めてでしたが、本当に素晴らしい交流ができたと思います。

特に私の印象に残っているのは分科会です。私の会社は構造設計事務所なのですが、講習会や勉強会というと技術的なものがほとんどでした。それに加えて他の分野の方と討論することはありませんでした。分科会にはそのテーマに対する意見を持った、さまざまな分野の方々が参加されていましたが、そんな方々の話は私にとってとても新鮮でしたし、勉強になることが山ほどありました。

その他もたいへん有意義でした。記念講演では池田さんの文明と文化の考えさせられる話。福永さんは300年住宅の話。見学会では300年住宅を実際に見ることができ、博多の町並みを堪能することができました。見学会までをすべて終えた時、自然に満足感で満たされました。しかし、満足してばかりで肝心のスタッフとしての仕事は当日に少しお手伝いができた程度で、福岡支部の皆さんには頭が下がる思いでした。

何日か経った後、分科会で新建の憲章についての話があったことを思い出し、『建築とまちづくり』誌の最後のページを読みました。普段の実務では忘れがちなことばかりが書かれていました。目先の仕事のことばかりに集中しがちですが、そんな時にこの憲章や今回の全国研究集会のことを思い出したいと思います。次回の全国研究集会には新建会員として参加できればと思います。 (福岡支部・中島健太郎)

### ■入会した年の素晴らしい経験

「本当に大丈夫?」「人数は集まるの?」「福岡では無理じゃない?」——そんな不安たっぷりの論議が飛び交う2月の会議から、全国研究集会の準備が始まりました。それからの約9か月間、個々の激務の合間を縫って、実行委員としての情熱をぶつけ合い、紆余曲折ありながら、自信と不安の入り混じった、言葉では到底言い表せない気持ちで迎えた全国研究集会初日。記念講演の参加人数を聞いて感激し、鳥肌がたちました。大盛況!準備期間のすべてが報われた瞬間でした。

2日目の分科会では、議論の中で自分のやりたいことや今後の方向性を発見し、設計者としての役割や在り方を学びました。夜の懇親会では、全国の方々との交流の中で“なぜ建築を?”との問いに自分の建築への原点や建築の楽しさを再認識でき、本当の意味で有意義な時間を過ごすことができました。楽しかった集会が終わり、全国の皆様方の感想を涙ながらにまとめました。皆様方の感想は、福岡支部への“ありがとう”の言葉で一杯でした。多くの方に喜んでいただけたことを実感しました。本当によかった。入会した年に、こんな素晴らしい経験をさせていただいた福岡支部の方々はもちろん、全国の皆様方に感謝します。またお会いできるのを楽しみにしております。皆様ありがとうございました。

(福岡支部・井上智子)



こんばんは。新建全国事務局長の今村です。

伊集院豊磨さん、井上智子さん、上田剛さん、大坪克也さん、沖本園さん、鹿瀬島隆之さん、片井克美さん、河野陵さん、神野佐和子さん、城戸美貴子さん、濱崎裕子さん、波田あい子さん、田中央王さん、月成かやさん、原田康幸さん、古川博さん、兼原信樹さん、宮本繁雄さん、矢野安希子さん、山口美恵さん、新建史上最高の3日間、ありがとうございました。  
 今日は同席して、一人一人にお礼を言いたいのですが、1000km離れているので、鹿瀬島さんに私からのメッセージをお願いしました。  
 私は大学卒業と同時に新建に入り、富山で準備会をつくり40年ですが、皆さんに最高の40周年をプレゼントしていただきました。ありがとうございました。  
 新建の全国企画（全国大会・研究集会・建まちセミナー）は40年で89回、全国各地で開催してきました。その内、私は80回程度出席してきました。全国企画の全国事務局長担当としても、15年間かかわってきました。福岡の研究集会について私の感想をお話します。

- 1、過去の全国企画と比べて最高であった事。
- ① 全国からの参加者をもてなそうとする心、準備のメールから読み取れました。
- ② 実行委員のメールの数と、最高のチームワークでした。
- ③ 企画終了後の実行委員のメール（終了後2週間つづいたのは初めてです）。
- ④ 30代、40代の方がほとんどの実行委員会（20年前まではありません）。
- ⑤ 2日目の実行委員手づくりの懇親会、参加者大満足でした。
- ⑥ 企画終了後すぐに感想アンケートのフォーマットが作成され、感想が寄せられたこと。
- ⑦ 企画終了後すぐに、福岡支部再生に向けて、2011年の活動スケジュールが作成された事。
- ⑧ 2011年の活動スケジュールで、研究集会の学習会が予定された事（事前学習会のところはありました）。
- ⑨ 福岡からの研究集会参加者の会員対比。  
 参加者59名は会員43名の1.4倍で、内会員参加26名は会員 の60%。  
 全参加者の内、福岡の参加者が43%。
- ⑩ 事前準備の実行委員人数（実働者17人）

※ MVP賞（皆さんで達成した最高賞）を差し上げたい気持ちです。

- 2、この3ヶ月間と当日3日間で私が感じた印象です。
- ① パンフレット作成までの神野さん、月成さん中心のチームワーク。
- ② 田中さんが加わってからの大活躍。
- ③ 当日の下作業（表では見えない作業）での井上さんの大活躍。
- ④ 片井さん、鹿瀬島さんの仲間をつむぐような統率能力。
- ⑤ 支部独自の広告集めと、会員のカンパ広告。
- ⑥ 若手中心の実行委員会に、年配者の協力的体制と古川さんの活躍。
- ⑦ 実行委員会に一般の方もいた。…河野さん、ぜひ会員になって下さい。
- ⑧ 大坪さんが事務所の仕事より、新建を優先して下さいました。
- ⑨ 会場下見の、一泊研修会をされた事。
- ⑩ 当日の役割分担にもつづいた、皆さんの自発的な動き。
- ⑪ 会場のすばらしい花を生けていた、沖本さんと手伝っていた兼原さん。
- ⑫ 懇親会の名司会者上田さん、最高でした。
- ⑬ 川崎さんの娘さん、川崎絵里さんのうっとりする中国琵琶。
- ⑭ 2日目の午後、いろいろの間で料理の準備をされていた沖本さん、月成さん、原田さん、城戸さん達。
- ⑮ 懇親会のおいしい料理と、おいしいアルコール、そして充分すぎる量（大満足でした）。
- ⑯ 細やかな気遣いと緻密な計算で、懇親会を充実させてくれた洪田さん、美恵さん。
- ⑰ 仲間同士を評価する提案をされた、矢野さん。
- ⑱ 実行委員に女性が8人（全体の40%）もいて、大活躍でした。
- ⑲ 私が当初想像していた実行委員会は、全国役員の兼原さん、鹿瀬島さんと片井さん、神野さん、古川さん、中心とっていました。
- ⑳ とにかく皆でやろうというチームワークとお互いの信頼関係に感心しました。
- ⑳ 当日、私は古い仲間（福永さん、内田さん、川内さん、新谷さん）に会えました。



以上が私の感想です。

最後に、明日の新建福岡支部が明るいと実感しています。  
 皆様、よろしくお願いたします。  
 来年の8月26日（金）27日（土）28日（日）の建まちセミナーで、ぜひまたお会いしましょう。

2010年  
 新建建築家  
 全国事務局長

追伸 今日欠席された、川崎薫さん、中島健太郎さん、福島光さん、松井研二さん、松尾ようしくお伝えください。

起点となった川崎氏による木造講座の状況



**建築基準法4号建物 特別見直し対応予定**

これだけは知っておきたい **木造住宅(4号建物)を建てるすべての人に**  
**木造住宅・構造の基本**

阪神大震災、耐震偽装事件を経て、建築基準法はこう変わった！

工務店・大工さんは 欠陥住宅業者にならないために  
 設計者は 欠陥住宅を造らないために  
 すべての人が 安全な建物を建てるために

新建建築家技術者集団がおくる画期的連続講座 全10回（毎月第3木曜日）  
 7月16日 開講 19時～21時（定員50名）

何故いま改めて学ぶ必要があるの？

阪神大震災と耐震偽装事件。この数年木造住宅を建てるための基準が大きく変わりました。さらに建築基準法の規制が強化されようとしています。また新たな建築技術や新建材の普及に伴い、建築の取組に必要となる知識や技術を習得し、この変化には対応できず安全なために知らなかったばかりにうっかり構造不備、欠陥住宅を生み出してしまわないために、この機会に改めて学んでみませんか？

講師 川崎 薫 氏  
 一級建築士・構造計算適合性判定員・構造設計一級建築士  
 日本木造住宅振興協会 理事兼 会長  
 建築士会、JSDA 等の各種研究会の講師活動多数

開催場所（予定）： 福岡市男女共同参画推進センター（アミリス） 講座教室  
 福岡市南区高宮1-3-1 (877)716(TEL)研修室D

受講費用（資料代を含む）：  
 1講座につき 一般 1,500円（一括支払いの場合12,000円で受講可）  
 新築費員 500円

各講座の時間配分： 講座 1時間30分（Q&A 30分）  
 Q&Aでは実際の疑問にも応じます。困難な場合はお持ちください。  
 又、気軽に質問したい方は講座後の懇談会どうぞ。

主催： 新建建築家技術者集団 福岡支部（講師、会員を募集中）

## 連続講座「これだけは知っておきたい!木造住宅・構造の基本」

※2009年に連続10回で開催

福岡支部では、このたび建築基準法4号建物特例見直し対応策として、「これだけは知っておきたい!木造住宅・構造の基本」という全10回の講座を企画した。

内容は題のとおり、今後も木造建築を建築するうえで必要であろう情報を盛り込み、設計者のみならず、工務店勤務や大工さんなど、建築に携わる人々に広く門戸を開くため、他の団体に所属している新建幹事を通じて、建築士会、日本民家再生協会、JSCAの木造部会、福岡中小企業連合会、福岡建設労働組合にも案内を流した。

実はこの講座の案は1月の幹事会で上がってはいたもので、講師を引き受けた川崎氏が草案を打ち出していたのである。しかし、必要性を感じながらも話はその場限りで、継続して準備を進めていたわけではない。ところが7月に入り、急遽チラシをつくりいっせいに案内を流したのは、第1回の7月16日の10日前である。

講座には、以下のような内容を盛り込んだ。

- 4号建物について知っておかなくてはならないであろう事柄  
(梁のたわみ、基礎・地中梁の考え方、壁量、平面バランス、金物配置・告示及びN値計算)
- 木造建築を設計する場合、知っていて損はない事項  
(土台、梁、柱、筋交い、端部取合い、仕口要領、木材の種類、乾燥・切欠きの怖さ、たわみのチェック、架構の考え方、基準法でチェックすべき項目)
- 木造建築を設計する場合、知っていて損はない事項  
(基準・指針の種類、欠陥と言われたら)
- 伝統工法で設計する場合、実際にどのような計算をすればいいの？
- 混構造や三階建て等を計画するときの注意事項
- 耐震診断と補強

当初、参加者は25名前後だろうと予測していたが、申込みは開催2日前の時点で30名を超え、急遽会場変更を余儀なくされた。10日前に依頼していた案内メールが建築士会会員に配信されたのは何故か2日前の夕方、ここからさらに参加者は増え、結局1回目の出席者は54名、申込みも65名となった。

申込み数と第1回講座終了後に行ったアンケート結果からは、今回の参加者の約8割が新建会員外であることがわかった。また「新建を知っているか」という質問に対しては、「知らない」が5割を超え、今後の新建のさらなる拡大の可能性を感じられた。

後半に進むにつれ出席者は少なくなったが、仕事でやむを得ず欠席となったという方も多く、最後まで好評を博した。延べ参加人数467人、大成功と言えるだろう。また、この企画で新会員の獲得もでき、毎月会員が顔を合せる機会となったことで、今後の福岡支部の起爆剤となったことは言うまでもない。(福岡支部・簗原信樹)

連続講座 出席者数の集計

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計
新建会員	11	12	9	8	7	5	5	3	5	3	68
一般	41	47	43	43	36	36	36	34	29	32	377
スタッフ	2	3	2	3	2	2	2	1	2	3	22
合計	54	62	54	54	45	43	43	38	36	38	467

※補足

- ・全回出席者は、13名(新建会員3名、一般9名、スタッフ1名。内、一括納入者は28名中7名)
- ・9回出席者は、7名(一般7名。内、一括納入者は28名中4名)
- ・この講座を機に、会員が3人増えました

## 新建唐津慰安旅行にかたって

古川 博

唐津は福岡から最寄で、温泉もあるが、あまり知られていない。今般はその唐津一泊慰安旅行を企画した。唐津の町並み、いろは島国民宿舎、名護屋城跡、呼子等は好んで訪ねるところである。参加者は17名、内鹿瀬島事務所のオーナーである小西社長は見学する旧高取邸、旧唐津銀行の改修工事に携わられたこともあり参加され、また旧唐津銀行の見学には同室の岡部姉も参加された。旅行日は土日であったので、筑肥線の快速がより多くあり、快速に最寄りの駅から参加者が便乗し、姪浜から快適な旅ができた。唐津は矢野さんの幼少時まで育ったところ、旧高取邸に行くすがら、旧居の前を通ったが、面影はなかった。

旧高取邸は平成10年に国の重要文化財の指定を受け、6年間の改修工事後、新たにオープンされた邸宅で、炭鉱王の邸宅は北部九州ではよく見受けられるが、能舞台を持つ邸宅は全国でも皆無である。各居室の天井が高く、床柱には銘木が選定して使われ、欄間にはヨーロッパの技法を取り入れており、暖炉も和室に設置されていた。国重文に指定されるだけ、質の高い和風建築であった。時間の関係で30分の急ぎ早の見学であったが、私は今まで改修工事中で見学ができず、初めての見学で十分堪能することができた。



昼食は最寄りの唐津茶屋でのアツ炊き定食、玄海灘の一本釣り深海魚である。身の硬いところが美味しかった。食後は小西社長による旧唐津銀行の内装工事等の苦労話の説明を受けた。貴重なお話であった。後は唐津城、斜行式EVで城広場へ。唐津城天守閣には名護屋城を解体した材料が使用されたという。戦後RC造で再建された唐津のシンボリック建造物である。風光明媚な虹の松原、玄海灘を見下ろす眺めは素晴らしい。後は石積階段を下り、唐津市内を散策しながらの目的地旧唐津銀行までの徒歩である。日頃歩いておられない人には少しきつい距離であったが、城壁を見ながらの楽しい散策であった。途中5月頃満開の藤棚を通り抜け、石積み階段は手摺があったものの、新谷さんの奥様には厳しい下りであった。



予定より早かったが、唐津市役所観光課の神田氏、工事担当の建築課香月氏に迎えられ、工事中であるが、見学が可能となったもの。

明治45年竣工の設計は辰野金吾の弟子の田中実、施工は清水組（現・清水建設（株））で、平成9年に市に寄贈され、平成14年に市重要文化財の指定を受けている。今般唐津市の観光資源として、また将来国の重要文化財を目指して、87千万円をかけ、保存整備工事がなされ、この3月15日がオープンである。煉瓦造の地下1階地上2階の建物で、今般文化財と

して、忠実に復元工事がなされた。また煉瓦造であるので外壁煉瓦部には鉄筋が挿入され、耐震補強がなされている。今回完成後は入室できない、貴賓室、塔屋、小屋裏にも入室が許された。よき建物見学であった。家庭の事情で、帰らなければならない鹿瀬島さんに別れを告げ、後は唐津駅前待機中のいろは島荘マイクロバスを目指して唐津駅へ、仕事の関係で遅れてきた井上さんが出迎えてくれた。別の宿泊客6名と宿舎へ。途中当方からの要請で鷹島大橋の見学を申し入れており、願いがかなって、長崎県・佐賀県で2百億円をかけた大橋を特に景観に配慮した橋として知られている。いろは島荘に近づく道すがら、大浦棚田の光景が目を楽しませてくれた。宿舎では、懇親会まで、温泉への入浴、また宿舎周辺の散策等で時間を過ごし、大宴会場に参集。ワウガヤ。後半にはカキモチもはいたり、宴もたけなわ、20時30分には切り上げ、10畳での2次会場で、差し入れのブランデー、泡盛を明けるほど、皆よく飲んだ。特に一番若い中島君は強い酒を飲まされた。酒豪である。翌日の朝食のメニューはということなしであった。

待機中のマイクロバスで出発。途中日本棚田百選の浜野浦棚田で、しばし下車。棚田ブームで来訪者が多いのか、展望台が設けられ、お店までできていた。最初の見学地は九電玄海原子力発電所である。案内ガールにより、館内に設置された見学者用ブースを見ながら説明を受けた。九州管内の電力は40%が当玄海と川内の原子力発電所でまかなわれている。ただ今般の大震災の原発事故により、最悪のメロケウの事故が福島原発一号機でおきてしまった。また当発電所ではじめて使用されている強毒のプルーサー燃料の廃処理の問題が、未解決のまま、使用されている等、原発事故前であったが、参加者皆関心を持ちながら、見学した。次の見学地佐賀県名護屋城博物館は入場が無料で、日韓の交流、歴史に焦点を合わせたエーワな展示で知られている。ボランティアガイトによる案内を受け、何故朝鮮出兵に城は必要であったのか等色々の疑問が持ちかけられた。築城は5か月で完成させている。名護屋城には最盛期12万人が住んでいたという。当時の博多の人口は3万人であり、その規模が推し量られる。多くの全国から集まった石工達は以降その地に住み着いた者も多々いるようである。

次の訪問地呼子朝市である。日曜日でもあり、大変賑わっていた。日本三大朝市の一つ。元気なお店のかけ声がいよい。呼子といえばイカの生き造り料理、名の知れたお店で会食した。昼食後小西社長、お子さんが風邪で上田君が、井上さんは業務の絡みで、また加藤さんは歌舞伎観賞で先に帰福。昼からは唐津曳家展示場、縄文時代の稲作が発掘された末蘆館の見学、中里善右衛門の作品の展示場と窯元の見学で、縄文時代の稲作の発見は我が国では唐津以外には無いようだ。後マイクロバスで唐津駅まで送ってもらい、筑肥線で帰福した。



## 新建福岡支部40周年記念・三沢浩講演会「レーモンドの失われた建築」

7月29日(金)「新建福岡支部40周年記念・三沢浩講演会『レーモンドの失われた建築』」を開催しました。当日は92名の参加。懇親会は21名、翌30日の「けやき通り散策」は14名の参加。精力的な三沢先生に圧倒された2日間でした。

▼今回のお話しは興味深くも衝撃的であった。

レーモンドの真価は戦後再来日後の作品群にこそ表れた。先生の言葉による「一時の混乱期」を通して本当のレーモンドが現れたと感じた。それは“simple, honest, direct, natural, economic”に象徴されるデザイン理念としての個性の表出である。我々は、その才能のほとぼしりが、日本の風土というフィールドの上にあったことを誇りに感じてよい。日本はそんな国なのだ。

我々は日々の建築行為においてデザインをどのように位置付けているか、改めて自問させられる。生産としての建築と表現としての建築の狭間でデザインに何を求めるのか、その理念は何か。この恵まれた地で建築をする者として常に意識に上せておきたい。

「失われた建築」を語り継ぐこと、今に残る建築からその思いを推測せしめること。この二つの思惑にまんまとはまってしまったのは、レーモンドに対する三沢先生の愛情溢れる語りのせいであった。

▼今回の講演はたいへん勉強になりました。

西洋の建物は「シェルター」、日本の建物は「オープン」。つまり、西洋の建物の考え方が「自然から守るもの」に対し、日本の建物は「自然と共生するもの」ということだそうです。レーモンドは日本で仕事をしていく中でそれを気づき、自分の建築に取り入れていったのです。私はそれを聞いて、逆に日本人である私たちは自然と

共生するということを忘れていつているのではないかと感じました。人間は自然の一部だという言葉聞いたことがありますが、まさにその通りだと思います。また、3月の大震災では、自然には敵わないということをあらためて感じました。自然に逆らわず、環境に順応して暮らせることが、レーモンドが目指した建築ではないかと感じました。



## 『レーモンドの失われた建築』

**新建学校 2011  
三沢浩 講演会  
7月29日(金)**

開場:18:30 開演:19:00~  
会場:都久志会館 4階 会議室  
(福岡市中央区天神4-8-10)  
会費:1,000円(学生:500円)  
(交流会は別途となります)

<p>三沢 浩(みさわひろし)氏</p> <p>建築家 三沢建築研究所主宰 新建築家技術者集団代表幹事</p> <p>1995 東京芸術大学建築科卒 レーモンド建築設計事務所勤務</p> <p>1963 カリフォルニア大学 パークレー校講師</p> <p>1970—福岡県立大学、東京理科大学 講師等を歴任</p>	<p>【主な作品】 長崎市民体育館 吉祥寺レンガ館モールド 近代平和祈念館計画 廣善記念館など</p> <p>【主な著書】 『レーモンドの失われた建築』 『アントニン・レーモンドの建築』 『F・L・ライトのモダニズム』</p> <p>【主な訳書】 アントニン・レーモンド『私と日本建築』 『自伝アントニン・レーモンド』</p>
---	---

『失われた建築』を通して レーモンドが切り開いた「日本のモダニズム」を語り、しかし僅かな記憶の索引と体験を手かりに書き残しておかなければ、足跡そのものも見えなくなってしまう。そこで失われたものを通して、日本の「近代建築」への道を拓き、取境や地域に思いを致した建築家の、思想や人格にも触れればと考えたのである。  
(「レーモンドの失われた建築」より)

**主催: 新建築家技術者集団福岡支部**

お問い合わせ、お申し込みは 新建福岡事務局(ケイ・プラザ内) TEL/FAX:092-541-8128 まで  
HP:www.shinsei-fukuoka.net Mail:k-platz@kmail.plaza.or.jp

▼講演会後、恒例の「三沢先生を囲んでの懇親会」に移行。

懇親会の良さは、講演会では裏方に徹していた新建会員が講師を目の前にして、聞きたいことを遠慮なく聞けることにある。講師の思想・基本的な姿勢、講師の周辺で起こった出来事などのエピソードを聞き出す絶好の場である。

講演会終了後に、女子学生にサインをねだられてご機嫌な先生は、講演会場から懇親会場に向かう足取りは軽く、懇親会の席上でも終始ご機嫌が良く、饒舌であった。

・三沢先生が建築運動に関わりをもった経緯とエピソード。

・前川國男が独立した事務所を構えた経緯。また、前川國男は、「なぜ、あんなに多くの所員を雇用できたのか？」など、前川國男の知られざるエピソード。

・聴竹居にまつわるエピソード。

・日本経済新聞（土曜日の文化欄）に掲載された「フランク・ロイド・ライト」が記事になった背景と勉強会のエピソード。



懇親会は、一次会での仲締めの後、二次会、三次会と続き、最後は三沢先生が宿泊するホテルのバーでお開き、その時刻は26時であった。

▼『三沢先生と歩く～けやき通りウォッチング・300年住宅竣工現場見学会』に参加。

今まで何気なく通過していた「けやき通り」は、官民協力しての努力の結晶によってできた通りでした。けやき並木の保存・低木植栽の維持管理・植栽のライトアップ・舗装計画・まちづくりへのアドバイス。春と秋ではライトアップの色も違うとのこと。

集合場所の教会見学では、三沢先生のデザインへの言葉。施工技術のこと、インテリアのこと、基準法のこととそれぞれの見方での会話が飛び交い、感心しました。

今回も感動・驚嘆の連続でした。中でも圧巻だったのが三沢先生の体力！バイタリティーあふれる歩き！いろいろな刺激を受けられる機会が多々ある、新建の良さを実感する2日間でした。

三沢先生、ありがとうございました。またの来福をお待ちしております。



# 2012 新建学校

## 新建福岡支部40周年記念講演会 「暮らしを支える 住まい・まちづくり」

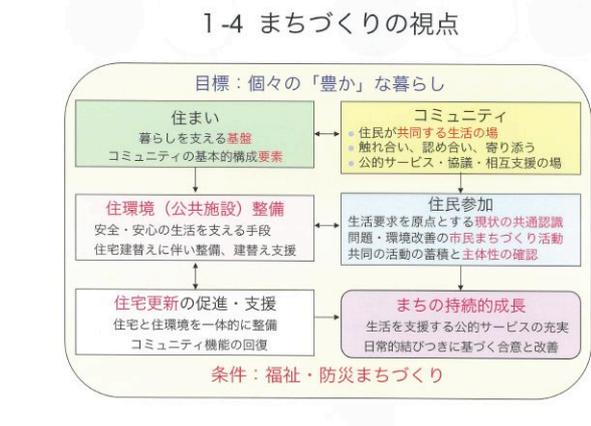
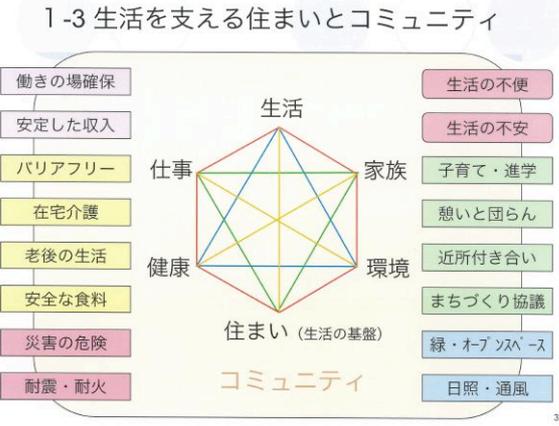
日 時：2012年2月25日  
 会 場：パナソニックリビング 3階  
 参加者数：約63名

1971年2月21日、福岡市中央区水鏡天満宮の一角で福岡支部は誕生しました。支部では昨年7月に三沢浩氏を迎えて40周年新建学校を行いました。記念行事は2月に合わせて準備してきました。昨年11月に実行委員会を結成し、古川博実行委員長のもと、支部幹事に加え創設時のメンバーも積極的でした。その中で、加藤千佳さんは会員ではありませんが、長崎・福岡見学の下見やパーティの司会と大奮闘のMVPです。

人びとの意識が変わり運動が広がったが、今だに行き先は見えない。新建の役割はなにか。悩みを抱えている人びとを支えるのは家族と地域だが、住まいの設計者に何が出来るか。地域ぐるみで住環境を改善していく「まちづくり」を考えたい。

主催：新建築家技術者集団福岡支部  
 お問い合わせ、お申し込みは 新建福岡事務局(ケイ・アプラツ内) TEL/FAX:092-541-8128 まで  
 HP:www.shinken-fukuoka.net/ Mail:k-platz@kmail.plala.or.jp

記念講演は「新建学校2012」を兼ねて東京から山本厚生さんと黒崎羊二さんをお招きしました。会場のパナソニック九州支店会議室には創設メンバー川内俊彦さんの筆による壁一面の題字を張りました。参加者は63名。今回の司会は新建福岡支部の若手のホープ中島健太郎君でした。新建福岡と講師を紹介し、新建学校「暮らしを支える住まい・まちづくり」の開始です。



山本厚生さんは、「この時代に新建の果たすべき役割は何か」「住まいの設計者に何ができるか」「私の住まいづくりの方法と課題」を語られ、新建の運動として「建築とまちづくりにかかわり要求を持ち課題に気付いた人々が、その実現と解決のために協力して行動すること」と明確に述べられました。私にとっても改めて新建運動を見直すきっかけとなりました。



支部創立大会にも参加された黒崎羊二さんは、今までの仕事の総決算との思いもあったのではないのでしょうか。上尾のまちづくりの実践を紹介し、まちづくりとは「暮らしを支える住まい（改善を軸とした）まちづくり」であり、「安全で安定した生活を支えるもの」で、それは公共の問題であるということ。職能上の問題として「われわれはかかりつけの住まいの専門家」として、生活者の視点を持ち総合的に活動することが重要であると指摘されました。



## 記念パーティ

東映ホテルでの記念パーティは49名の参加となりました。講演会の熱気を引き継ぎ、東京から来られた山本ヒカルさん、海老沼さん、中島さんご夫妻、林さん、村上さんらも加わり、参加者とともに和やかに楽しいひと時となりました。

講演会の時と同様に川内俊彦さんによる素晴らしい書道デザインの垂れ幕をバックに、創設メンバー新谷肇一さんから開会の辞、新建を代表して山本厚生さんの挨拶。新建福岡で初めて行った招待客からは、日本建築学会九州支部の藤本一寿支部長と福岡県建築士会の田中副会長にご挨拶をいただきました。

乾杯は創設時メンバー内田朋道さんから。会食時には「新建福岡40年のあゆみ」として、片井さん作成のスライドが流されました。福岡支部会員にとっては懐かしい写真もあったようで、40年の思い出に浸ることができたのではないのでしょうか。



スピーチでは東日本大震災の復興に関する朝日新聞社「ニッポン前へ委員会」提言論文で最優秀賞に輝いた佐藤俊郎氏を始め、福岡県建設業協同組合の黒木義彦氏、福岡住環境を守る会会長で弁護士の幸田雅弘氏、日本住宅会議九州支部の斎藤輝二氏など豪華な顔ぶれのご挨拶をいただきました。その中には新建福岡への温かな批判もあり、これをめぐっては新たな論争が生まれそうです。余興としては山本さんのひと断ち折り紙を実演していただき、参加者からは驚きの声が上がりました。

最後には40周年記念事業実行委員長の古川さんより挨拶を頂き、締めは福永さんによる博多手一本で福岡らしいお開きとなりました。

パーティの後は2次会、3次会と東京から来られた方々を囲んで別れを惜しんで続けました。東京からの6名の方々は福岡の会員とともに長崎見学を終えて会場に駆けつけるというハードなスケジュールでしたが、疲れも見せず私たちに接していただきました。弁舌爽やかな黒崎さんのお元気な姿が印象的でした。



## 見学会

2月24日の長崎見学会は東京6名、福岡6名、長崎1名の参加となりました。同行の黒崎羊二さん(前まちづくり研究所所長)に、長年取り組まれたまちづくりの現地を案内していただきました。まず、オランダ坂を登り、東山手の洋館に立ち寄りしました。オランダ坂を抜け、傾斜地に設置された日本初の斜行エレベーターを使い丘の上にあるグラバー園の裏門へ。頂上から斜面地にギッシリと密集した住宅群を前に事業の概要・目的を説明していただきました。



長崎の会員、鮫島さんの自宅はすぐ近くで、居間から港を切り取った素晴らしい眺めが一望できました。その後、グラバー園を見学し、昼食は長崎名物ちゃんぽんと皿うどんです。

住宅密集地の現場では幅1mほどの路地と階段が延々と続いています。私たちと前後して郵便屋さんも徒歩で配達しているのを見た時、大変な地域だと実感しました。斜面密集地の上下に車道があり、高低差は100mほど。救急車を呼んでも、車までは背負って運び、手遅れになったこともしばしばとか。火災でも同じ状況だったそうです。新築時の資材運搬には近年までロバが大活躍とか。行政主導の道路建設がストップしており、生活を守りながら解決策を探っていくことが重要であることがわかりました。至る所で、交通や狭小敷地、老朽化などに問題を抱える現場を目の当たりにし、それらに対してどう向き合ってきたのかを黒崎さんに説明して頂きました。足腰は疲れましたが、黒崎さんの理念とその実践を間近で見ることが出来て、大変有意義でした。夜は五島列島近海の魚料理を満喫しました。25日は平和公園を訪れ、講演会会場の福岡へ向かいました。



26日の福岡見学会は東京7名、福岡11名の参加となりました。福岡は福岡城内で発見された鴻蘆館を窓口とした大陸との交流の地でした。そこで福岡城内の天守台と鴻蘆館へ。天守台からは市内が一望できます。ここに天守閣を再建しようという動きがありますが、史実として有無が明確でなく、論争が続いています。

現在の太宰府は学問の神様天満宮が中心で、受験合格のお礼参りが多く見られます。天満宮の奥にあるお石茶屋で名物梅が枝餅を食したのち、太宰府政庁跡地に向かいました。政庁跡地では鴻蘆館を経て大陸からの風が感じられました。



# 新建福岡支部40年の活動のあゆみ

(2012年10月現在)

年代	福岡支部の歴史	会員	全国の動き	建築の動き	世状の動き
1970	● 住民自治環境学習会		● 新建築運動統一準備会 ● 設立総会（東京）	● 建築基準法の改正	● 万国博 ● 日米安保自動延長 ● 消費者物価高騰
1971	● 支部設立総会 ● 学習会「科学的図面の追求」 ● 懇談会「働く技術者の生きがい」	18			● ロボット産業 ● ドルショック ● 中国の国連代表権回復
1972	● 西山卯三講演会 ● 一級建築士講座	36		● 日本列島改造計画 ● 日照権紛争	● 札幌オリンピック ● 沖縄返還 ● 日中国交回復
1973	● 第2回まちづくりシンポジウム ● 第1回福岡を考えるシンポジウム ● NHK話題の窓「路面電車を考える」出演	55			● オイルショック ● 狂乱物価 ● 省資源
1974	● 広原盛夫講演会 ● 住田智二氏懇談会 ● 九設連・市従連との懇談会	60		● 優良住宅部品 ● 認定制度スタート	● ゼロ成長 ● ウォーターゲート事件 ● モナリザ来日
1975	● 山口文象講演会 ● 北九州市（図書館・美術館）見学会 ● 第一回九州協議会	75		● 沖縄海洋博	● 南ベトナム解放 ● エリザベス女王来日 ● ロッキード問題
1976	● 熊本（太洋デパート・美術館）見学会 ● 石井郡信座談会 ● 大谷幸夫講演会	78			● ミグ25強行着陸 ● 新自由クラブ結成 ● 毛沢東主席死去
1977	● 坂田展甫座談会「環境工学はどこへ行く」	82			● 円高、世界経済の混迷 ● 社党内紛 ● 青酸コーラ事件
1978	● 技術講座（防水） ● 近代建築学習会発足 ● 第3回ソフトボール大会	78			● 成田空港開港 ● カラオケブーム ● 窓ぎわ族
1979	● 磯崎新講演会 ● 第一回建築展 ● 新建ふくおか特集「どうなる県庁跡地」	81			● 東京サミット ● インバーダーゲーム大流行 ● 自動車電話
1980	● 県庁跡地を考える会 ● 支部10年誌編集委員会発足 ● 第9回新建全国研究集会（福岡）	100		● 静岡駅前 ガス漏れ大爆発	● 実質賃金初のマイナス成長 ● ウォークマン大流行 ● タケノコ族
1981	● 「博多湾」プレシンポジウム ● 「若手の会」発足 ● 「九州建築系学生」サマーセミナー	91		● ポートピア'81開催 ● テクノポリス	● 校内暴力 ● ルービックキューブ ● 初のエイズ患者発見
1982	● 日本建築学会秋季大会 ● 大交総会（田主丸キャンプ） ● セミナー「新建ってなんだろう」	84		● ホテルニュー ジャパン火災	● 日航機羽田沖墜落事故 ● スペースシャトル爆発事故
1983	● 西日本工業倶楽部見学会 ● 鹿児島支部設立総会出席 ● 建築・環境問題研究会結成総会参加（有志）	80		● 秋田沖で地震	● イランがイラク油田攻撃 ● おしん放映 ● 大韓航空機墜落
1984	● 秋岡芳夫講演会 ● 企画・技術講座「基本照明の歴史」 ● 公共建築学習会	74	● 「建まち基金」取組運動	● 三宅島大噴火	● 冬期五輪サラエボで開催 ● 植村直己消息断 ● ロス五輪開催
1985	● 青木正夫スライド座談会 ● 建築展「今、建築は甘いかスッパイカ」 ● 前原町民会館建設問題	76		● 「つくば'85」開幕	● 軍用シャトル ● ゴルバチョフ就任 ● 日航ジャンボ機墜落
1986	● 見学会「新千鳥橋病院」 ● 大交流会（田主丸キャンプ） ● 住宅勉強会	63		● メキシコ大地震 ● 三原山噴火	● アキノ政権成立 ● チャレンジャー爆発事故 ● チェルノブイリ原発事故
1987	● 全国研究集会新建賞発表 ● 第一回新建賞記念パーティー ● 九州住宅会議合同講演会	65		● 青函トンネル開通	● ペレストロイカ実施 ● 中距離核戦力全廃条約調印 ● 国鉄分割民営化JRに
1988	● 博多湾の自然を守る会学習会 ● 建築展「どうなるマンション」 ● 現代英国建築展	60		● 東京ドーム完成 ● 瀬戸大橋開通	● オレンジ輸入自由化 ● ソウル五輪開催 ● リクルート疑惑事件
1989	● 福管協第3回総会 ● 新建「土地問題委員会」 ● 新建学校	54			● 平成に改元 ● 消費税スタート ● 天安門事件

1990	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県自治体問題研究所総会</li> <li>マンションメンテナンス研究会発足</li> <li>福管協「マンション110番」</li> </ul>	62	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表幹事海老原一郎氏逝去</li> <li>職能シンポジウム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラク・クウェート侵略</li> <li>東欧諸国共産党の退潮</li> <li>統一ドイツ誕生</li> </ul>
1991	<ul style="list-style-type: none"> <li>大牟田 病院見学会</li> <li>第18回全国大会（福岡）</li> <li>マンションメンテナンス研究会</li> </ul>	62	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラン大地震</li> <li>雲仙普賢岳火災流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バブル崩壊</li> <li>湾岸戦争</li> <li>若貴ブーム</li> </ul>
1992	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学会「福岡ドーム」「柳川川下り」</li> <li>レク：朝倉三連水車まつり</li> <li>支部20周年記念の集い</li> </ul>	63	<ul style="list-style-type: none"> <li>地価初のマイナス成長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京佐川急便事件</li> <li>バルセロナ五輪開幕</li> <li>米ロス暴動</li> </ul>
1993	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学会「熊本アートボリス」</li> <li>PC工法の昨今、鍵の話</li> <li>レク：津屋崎海の家</li> </ul>	63	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道南西沖地震</li> <li>インド大地震</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Jリーグ開幕</li> <li>細川連立内閣成立</li> <li>冷夏で米緊急輸入を決定</li> </ul>
1994	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学会「宮崎シーガイア」</li> <li>CAD講座（1～3）</li> <li>英国の近代建築事情</li> </ul>	62	<ul style="list-style-type: none"> <li>西山卯三氏死去</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>松本サリン事件</li> <li>村山連立内閣成立</li> <li>関西国際空港が開港</li> </ul>
1995	<ul style="list-style-type: none"> <li>河野泰治氏講演会「イギリスに住まう」</li> <li>建築トラブルと教訓</li> <li>見学会「芦屋釜の里」</li> </ul>	62	<ul style="list-style-type: none"> <li>阪神大震災</li> <li>死者6,000人</li> <li>都市博が中止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下鉄サリン事件</li> <li>住専処理に6,850億円</li> <li>野茂大リーグ新人王</li> </ul>
1996	<ul style="list-style-type: none"> <li>福永博氏「300年住宅」出版記念講演会</li> <li>見学会「玉名五重の塔+KAP」</li> <li>ミニ講演会新建事務局長：千代崎氏</li> </ul>	62		<ul style="list-style-type: none"> <li>英、狂牛病騒動</li> <li>アトランタ五輪開催</li> <li>0-157による食中毒発生</li> </ul>
1997	<ul style="list-style-type: none"> <li>新建今昔物語「新建の綱領について」</li> <li>見学会「むべの里」</li> <li>地盤沈下と建物の障害</li> </ul>	62		<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸、児童連続殺傷事件</li> <li>香港返還</li> <li>ダイアナ元王妃事故死</li> </ul>
1998	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガーデニングを楽しもう</li> <li>見学会「高橋酒造」「八千代座」</li> <li>新会員拡大記念「新建を知る会」</li> </ul>	58	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界各地で気象被害が多発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬期五輪長野大会開催</li> <li>ワールドカップ仏大会開催</li> <li>黒澤明監督死去</li> </ul>
1999	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築とワインのタベ</li> <li>失敗に学ぶ</li> <li>見学会「原田瑛瑠」「300年住宅」</li> </ul>	74	<ul style="list-style-type: none"> <li>トルコ大地震</li> <li>台湾大地震</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーロ始動</li> <li>東海村核燃料施設臨海事故</li> <li>警察一連の不祥事</li> </ul>
2000	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学会「木材薫煙処理工場」</li> <li>鹿児島支部設立総会参加</li> <li>三沢浩氏講演会 ※支部HP開設</li> </ul>	70	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立30周年 全国研究集会</li> <li>三宅島の噴火</li> <li>鳥取地震</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄サミット開催</li> <li>アメリカ大統領選大混乱</li> <li>20世紀最後の日</li> </ul>
2001	<ul style="list-style-type: none"> <li>じゃんくうにて新年会</li> <li>明かりについて、敷き込み瓦のWS</li> <li>山本厚生氏講演会</li> </ul>	69	<ul style="list-style-type: none"> <li>9・11同時多発テロ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>池田小児童殺傷事件</li> <li>歌舞伎町ビル火災</li> <li>自衛隊が海外で軍事支援</li> </ul>
2002	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部空間のデザイン、壁紙を学ぶ</li> <li>八千代座見学&amp;たけのこ堀</li> <li>支部財政の問題</li> </ul>	67		<ul style="list-style-type: none"> <li>拉致被害者帰国</li> <li>サッカー日韓Wカップ</li> <li>ユーロ統一</li> </ul>
2003	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋上緑化、ゴミから循環型社会を考える等</li> <li>新伝統木構法の増田セミナー</li> <li>支部総会に今村事務局長</li> </ul>	57	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮城県北部地震</li> <li>十勝沖地震</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米軍がイラクに侵攻</li> <li>自衛隊を戦地へ派遣</li> <li>SARS集団発生</li> </ul>
2004	<ul style="list-style-type: none"> <li>柳川下り、色彩について等</li> <li>川崎町の処分場問題</li> <li>建築探訪ツアーin西日本</li> </ul>	52	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマトラ島沖地震</li> <li>インド洋津波</li> <li>新潟県中越地震</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>59年ぶりに戦地へ派兵</li> <li>九州新幹線開業</li> <li>アテネオリンピック</li> </ul>
2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築探訪ツアーin山口、地中熱利用について</li> <li>延藤安広氏講演会（建築士会共催）</li> </ul>	63	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県西方沖地震</li> <li>耐震偽装発覚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR福知山線脱線事故</li> <li>解散権の乱用で総選挙</li> <li>個人情報保護法全面施行</li> </ul>
2006	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡西方沖地震について</li> <li>耐震補強マンションの現場見学</li> </ul>	62		<ul style="list-style-type: none"> <li>安倍内閣発足</li> <li>イラクから自衛隊撤収</li> <li>在日米軍再編最終合</li> </ul>
2007	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築基準法改正の余波の年</li> <li>住環境を守る会等の活動に参加</li> </ul>	55	<ul style="list-style-type: none"> <li>能登半島沖地震</li> <li>中越沖地震</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福田内閣発足</li> <li>「消えた年金」</li> <li>食品偽装問題</li> </ul>
2008	<ul style="list-style-type: none"> <li>改正基準法について等の例会</li> </ul>	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>四川大地震</li> <li>岩手・宮城内陸地震</li> <li>研究集会in奈良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>麻生内閣発足</li> <li>リーマン・ショック</li> <li>北京オリンピック</li> </ul>
2009	<ul style="list-style-type: none"> <li>サグラダファミリアについて、男の手料理</li> <li>夜須高原にてささやかな決起集会</li> <li>川崎氏による木造講座が開催</li> </ul>	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国大会in埼玉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政権交代・鳩山内閣</li> <li>新型インフルエンザ騒動</li> <li>裁判員制度施行</li> </ul>
2010	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究集会実行委員会を設置</li> <li>夜須高原にて準備ワークショップ</li> <li>全国研究集会in福岡を開催</li> </ul>	43	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立40周年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検察の証拠改ざんが発覚</li> <li>菅内閣発足</li> <li>中国漁船船長を逮捕</li> </ul>
2011	<ul style="list-style-type: none"> <li>例会・支部機関誌・支部総会の再開</li> <li>三沢浩氏講演会</li> <li>福岡支部40周年記念実行委員会の発足</li> </ul>	46	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災</li> <li>福島原発事故</li> <li>全国大会in横浜</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春場所中止</li> <li>野田内閣発足</li> <li>欧州債務問題</li> </ul>

～ 新建 2020年 への旅 ～

21世紀の時代をつくるのは”あなた”です！

# 新建福岡支部の活動

(2000～2012)



2001年  
山本厚生氏講演会  
(新谷邸)



2002年  
八千代座  
たけのこ堀  
(山鹿市)



2003年 総会  
(ゲスト今村氏)



2002年



2005年



2004年



2005年

2006年 現場見学 (福永氏)



2006年  
忘年会&総会  
(いつもの原田邸)





2009年  
川崎氏による木造講座



2010年 夜須高原



2010年 第1回実行委員会  
(木香庵)



お風呂コンテナ  
(福永氏)



2011年  
三沢浩講演会

2011年 総会



2012年 40周年記念



### 伊集院豊麿

新建福岡支部の活動が40年続いた。

その原動力は、

- ①「この指とまれ方式」の活動を続け、
  - ②楽しく活動することを心がけ、
  - ③常に財政を健全にすることを大事にした。
- この当たり前のことを続けたい。

- 40年前に私はこんなことをしていた
- 新建の活動で、自分の印象に強く残っていること
- 自分が成長する機会になった新建の出来事
- 新建福岡支部50周年に向けて
- 今後の新建福岡支部に期待すること

### 井上智子

福岡支部のメンバーが一丸となって全精力を注ぎ込んだ、第27回全国研究集会。

例えようもない充足感を今でも鮮明に覚えています。  
”新建の一員になれた事”それは、私の人生に於いて  
すごく意味のあるものになっています。

### 上田剛

なんといっても夜須高原での全国集会です。  
懇親会担当として試食を重ね、最終的には自分たちで作って振舞うというじつに博多らしいおもてなしをすることが出来ました。  
力着くまで皆で頑張った最高の思い出です。

### 大里博之

#### 私と「新建」

私自身会員となって25年が経過し、様々な活動を通じて多くの出会いがありました。

そこは技術を高める場、人間的な付き合いのできる「ほっと」する場でもありました。

この両面がある組織が「新建」ではないでしょうか。

### 大坪克也

○40年前17歳、高校三年生～♪ 翌年、小山教官室でシンケンを初耳。全国建築系学生連合会サマーキャンプin琵琶湖パレイで西山卯三の話聞く。山陰をヒッチハイクで帰る。

○33年前24歳、就職。ひたすら仕事。たまにテニス。磯貝道義より建築とデザインを学ぶ。

○23年前34歳、独立。ひたすら仕事。たまに居酒屋。翌年、川崎薫氏より「面白い飲み会のあるけん来んね」との誘いに乗って新建に再会、即入会。団建築（内田、川内、新田氏）、岩野、松本氏らより「新建」を学ぶ。

○20年前37歳、福岡支部20周年記念事業へ会員団結奮闘。実践報告等例会企画、機関紙担当。会員増で活気づくも新建色減りサロン化。

○17年前40歳、ダム湖に沈む村の再生計画の相談を受け村のリーダーの話に覚醒。ひたすら地球環境を学ぶ。事務所を解散、JIA退会、新建からも遠のく。環境勉強会やガイア通信（FAX）で周囲に迷惑をかける。とほほの日々。

○7年前50歳”第二よりあい”の仕事で「建築」へ復帰。

○2年前55歳、全国研究集会準備で新建へ復帰。

○現在57歳、ひたすら仕事。たまに“よりあいの森”の村長さん。

○18年後75歳、まだ仕事。そろそろ引退か？

○35年後92歳、死去。直ちに銀河中心のスーパーブラックホールを見に行く・・・The End

## 沖本圓

新建に参加して15年

個性豊かな人たちの  
自由で対等で緩やかな繋がりでありながら、  
きちんと伝えきちんと受け止める  
まじめで真摯な人間関係が有り難い事ですし、  
私が生きていくうえで支えになっています。  
これからも生き物としての原点に立った  
真っ直ぐな気持ちが伝わる場でありますように。

## 甲斐國浩

私が入会したのは17年前になります。  
仕事にかこつけて、数多くの企画にも参加できず、  
申し訳なく思っております。  
入会してからの私は、沢山の設計の先生方の  
考えのもと、勉強させられました。  
木造建築の中のステンレスの協和、厨房設備士と  
しての既成概念を一変させられました。  
まるで展示商品の並べ替えのレイアウトしか  
やってこなかった私には、勉強不足を実感させられ  
ました。厨房業界の中だけでいたならば、物売りの  
仕事しかできていなかったと思います。  
今後とも新建の皆様と日々勉強してまいりたい  
と思います。

## 鹿瀬島隆之

福岡支部に入会して10数年が経ちますが、  
初めて今年から支部で「新建憲章」や「活動方針」  
についての勉強会や「建まち誌」の読み合わせを  
始められる様になりました。  
40年間地道な活動を続けて来られた先輩方を見習い、  
今後の自分自身の活動や仕事に繋げていきたいと  
思っています。

## 片井克美

40年前の私

鹿児島大学探検部に入学し、活動を始めた時期。  
親元から離れたことが無かったのが、  
奄美大島、復帰前の沖縄と行動範囲が一挙に  
広くなりました。  
その結果、山陰、沖縄先島諸島、インド一周  
そして大学6年間でした。

## 北岡敏郎

いつの頃からでしょうか、会費だけを払うようにな  
ってしまったのは。

「建まち誌」も忙しさにかまけて目次のチェックに  
終わっています。以前は授業の教材として使って  
いたのですが。退職後にあらためて読ませてもらお  
うと思っています。

## 神野佐和子

新建の活動を通じて自分なりの建築を捉える  
視点が据わってきました。

「そこで住むひと・使うひとが生き生きして  
初めてその建築が生きる」ということです。  
家もまちも都市も同じ。  
ささやかだけれど、そこから始めたいと、  
いつも思います。



## 河野陵

40年前は生まれていませんでした。  
新建の活動で、自分の印象に強く残っていることは福岡での研究集会ですね。  
駅まで何往復したか分かりません（笑）  
今後も出来る限り、出来る範囲で新建に関わっていけたらと思います。



## 川崎薫

今から40年前の新建発足時、自分は18歳、工業高校の機械科を卒業して三重県の津市にある紡績工場で一工員として働いていました。  
高卒でも大卒に十分勝てると意気込んで入った会社は初めから昇進コースが高卒と大卒では違って、高卒は良くて課長、大卒は悪くて課長、良くて社長と言われ意気消沈。  
入社して初めに全工場を見学しましたが、その中で最新の機械を使った秘密工場があり、うるさい、埃っぽい、窓が無い（秘密だから）  
自分はここの配属は無いだろうと思っていたら、なんと自分一人が的中！！  
一年後の退社まで三交替で動きました。  
しかし女性が圧倒的に多く、「ここは仕事さえ無ければ最高！」と言っていました。  
夏になり、仕事に慣れてきて、ふと自分のこの先を考えてみると、このままではいかんと思い、大学情報誌を買って親にも言わずに、一人で大学に行くことを決め、受験しました。  
親は何も知らず、近所のおじさんに「新聞の合格おめでとうの欄に“川崎 薫”と有るけど、あんたんとこの息子じゃないかね？」と言われ、こっちに確認のTEL。  
自分にもまだ合格通知が届いてなかったので、その電話で自分も合格を知った、と、気ままな青春を謳歌していた40年前でした。

## 渋田あい子

40年前はさすがの私もまだ高校生。しかしその数年後大学で建学連の関西でのセミナーに参加し、新建という大人の集団があることを知りました。  
その時は「Who is西山卯三？」とカルチャーショック。  
それが3年前の4号建物のセミナーで新建に出会い、昔の答えを捜すかのように、とにかく参加してみよう。期待を込めて加入させてもらいました。

## 田中史王

新建で、出会った先輩・後輩、訪れた場所、笑い・悩み・学びに過ごした時間は、私にとってどれも大切な財産です。  
個人的に「か」から始まる名前の方々に大変お世話になりました。  
単なる偶然かもしれませんが。

## 月成かや

以前福岡支部のことを「縁会」と表現された方がいましたが、本当にそのとおりで実感しています。  
建築、建築以外の刺激をうけることができる場であり、あたたかい人の和があるところ。  
これからもよろしくお願いします。

## 中島健太郎

この40周年記念誌の原稿を作成するために、過去の原稿を見ていたら福永さんの研究集会の時の記事が目にとまりました。

西山卯三さんに「五十代になっても新建の活動ができていますか?」と問われていました。

まだまだはっきりしませんが、何十年後、自分の理想像と新建の理念を重ねられていればいいなと思います。

## 原田康幸

1999年に新建福岡支部に入会して10数年が経ちました。

やはり、2010年秋の夜須高原での全国研究集会を開催したことが、福岡支部の40周年の記念イベントだったと確信しています。

この開催の為に、実行委員会を重ねた1年余りの活動は、大変でしたが充実していました、また感動がありました。

## 福永博

社会の荒れが進んでいる。

建築の自由をはき違え、法に従えば何でもできると勘違いしている。

民陶運動、新建運動、「運動」には目標の言葉と実例の積み上げがある。

正しい運動でありたい。新建の役割は大きい。

## 濱崎裕子

学びのあと酒ありき、酒を飲みのみ熱い談義一。

福岡にまだ友人の少ない頃、新建の集まりは、いろいろな意味で自分を高めてくれました。

憲章に謳われていることの実践が、これまでと、これからの生き方だと思います。

## 古川博

## 新建に思う

新建に加わって8年目の新参者であるが、

活動や交わりに参加し、特にアット・ホームなところがよく、よい集団です。

皆が求めていることで、これからもこの雰囲気や大事にしていてもらいたい。

## 矢野安希子

面白い会があるから、一緒に行きませんか。

私の新建ものがたりは、こうして始まった。

おもしろい勉強会。

おもしろい活動。

そして何よりも、おもしろい仲間に、

今なお、わくわくで購読中。

さて、次回のお話は！



## 編集後記

編集委員長 伊集院豊磨

新建福岡支部の40年間の活動をまとめた目的は、以下の三つである。

- ①過去の活動から学び、今日と明日の新建福岡支部の活動に生かすこと。
- ②人の記憶が新しい時に記録に固定すること。
- ③近年散逸していた新建福岡支部活動の過去の40年間の資料を一箇所に集めること。

今回の新建福岡支部「40周年記念誌」編纂の特徴は以下の二つである。

第一には、新建福岡支部設立40周年記念事業（古川博実行委員長）を実施し、「40周年記念誌」の編纂は記念事業の一部として行われた。

第二に、この記念誌に掲載した内容の多くは「建築とまちづくり」誌にすでに掲載していた。いわば、「建築とまちづくり」誌の中から新建福岡支部を舞台にした活動を切り取ったという性格を持っている。全国機関紙「建築とまちづくり」と福岡支部の活動が密接になったという点では、大きな前進である。なお、紙面構成の都合により「建築とまちづくり」に投稿した原稿には手を加えた。

この「40周年記念誌」の編纂では、下記の多くの方々が原稿を執筆し、編集作業に参加した。一人一人の小さな活動の積み重ねがこの記念誌に結実した。特に編集作業は鹿瀬島事務局長に負うところが大きい。

これまでに新建福岡支部が行った10年ごとのまとめが、世代を超えた継承に大きな貢献をした。最後に、この「40周年記念誌」編纂がこれからの新建福岡支部の活動に役立てば幸いである。

## 編集体制

### [原稿執筆者及び紙面構成の分担]

ごあいさつ (P-1) .....	片井克美
新建福岡40周年記念誌発行にあたって (P-2) .....	新谷肇一
プロローグ 全国研究集會にむかって (P-3、4) .....	鹿瀬島隆之
2010 第27回新建全国研究集會 in 福岡 (P-5~P7) .....	田中史王
見学会 B=うきは・吉井 (P-8) .....	渋谷あい子
まとめ・感想 (P-9、10) .....	田中史王・中島健太郎・井上智子
研究集會後の様子 (P-11) .....	今村彰宏 鹿瀬島隆之
連続講座「木造住宅・構造の基本」(P-12) .....	月成かや
新建唐津慰安旅行にかたって (P-13、14) .....	古川 博
2011 新建学校「三沢浩講演会 (P-15、16) .....	井上智子
2012 新建学校「福岡支部40周年記念講演会」(P-17~20) .....	中島健太郎
新建福岡支部40年のあゆみ(年表・写真)(P-21~24) .....	鹿瀬島隆之
新建福岡支部40周年に思う一會員の声23名(P-25~28) .....	矢野安希子
資料編	
新建福岡支部設立の経緯と最初の10年の歩み (P-31、32) .....	新谷肇一
日本における建築運動の歩み (P-33、34) .....	本多昭一著より抜粋
新建建築家技術者集會のあゆみ(全国編)(P-35~38) .....	新建全国事務局作成より転載
表紙 .....	題字: 川内俊彦・絵: 沖本圓

## 資料編

### 新建築家技術者集団 憲章

Charter of New Union of Architects and Engineers

(2001. 11. 24. 第 23 回大会決定)

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ、環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

## 1. 新建福岡支部設立までの経緯・・新建福岡の母体となった

### 「住民・自治・環境学習会」

1960年代の終わりから70年代の初めは日本の高度経済成長の歪みが社会のあちこちに現れ、その改革を求める高揚した社会情勢があった。70年安保を軸に、政治の革新、平和、民主化、公害反対などを求める国民の運動がさまざまな分野で沸き起こっていた。

福岡では1968年6月、箱崎の九州大学構内で建設中の大型計算機センターに、ベトナム戦争に使われる米軍ジェット機ファントムが墜落、炎上するという大事故が発生し、それを機に学長を先頭にした抗議と米軍板付基地の返還運動が高揚していた。

学内では米軍機の処理をめぐる、大学の民主化、大学自治のあり方が問われ、全国に先がけて大学民主化闘争が起こっていた。東大安田講堂事件も同じ頃である。その後、これが全国に波及し、いわゆる大学紛争が大学の民主化、大学管理法案反対をめぐるって勃発し、70年安保の闘いにもつながっていった。

この運動で社会に目覚めた九大建築学科の大学院生を中心に、設計事務所の技術者、高校教師などが一緒になって、自らの研究や技術を交流し合い、共に語り、社会へ働きかける活動が始まった。これが新建福岡の母体となった「住民・自治・環境学習会」であった。

この会は1970年1月に7名からスタートし、2年目には最高の盛り上がりを見せ、96名の会員となっていた。建築技術研究会、子供の環境研究会、広場問題研究会、職場問題研究会、住民・自治・環境をめぐる動き研究会の5つの研究会が動き出し、定例会はこれらの研究会の持ち回りで運営された。研究会以外にレクレーション活動にも力をいれ、忘年祭り、オールナイトティーチン、交流キャンプ、登山等が50～60人の規模で取り組まれた。熱気を感じさせる精力的な取り組みであった。

このような時期に各地の建築運動の全国統一を目指して、「新建築運動統一準備会」への呼びかけが学習会の会員に届いた。早速、会としても代表を送ろうということになり、1970年2月22日の名古屋での会合（第3回統一準備会）に3名の仲間が出席した。続いて、第4回（京都3.28～29）、第5回（大阪5.10）にも3名の代表を送り、この取り組みが実って1970年12月6日に東京で「新建築家技術者集団」の設立総会が行われた。

これを契機に福岡でも支部を設立しようということで、「住民・自治・環境学習会」の建築技術研究会のメンバーが中心となり、1971年2月21日に、天神の水鏡天満宮社務所2階の広間で、東京から高橋偉之議長を招いて18名で新建福岡が設立された。

あれから40年である。新建福岡の設立の母体となった「住民・自治・環境学習会」はその後、中心メンバーが次第に新建の運動に力を入れ、学習会の活動から離れて行くにつれて停滞し、1974年頃にはほとんどの活動は終焉したが、小山紘三氏の指導で九州大学の建築学科の学生を中心に1977年頃まで活動が継続されていった。

## 2. 設立から最初の10年の歩み

新建福岡の設立後、「住民・自治・環境学習会」の1部会であった建築技術研究会を引き継いで新建の例会がスタートした。「新建設立大会基調報告の討議」、「設計技術者の生きがい」、「設計事務所のあり方」、「木造技術の学習」、「新建築基準法の学習」など様々な関心のあるテーマで話し合いが持たれた。また、第1回総会での方針に基づき、「明日の住まいを考える研究会」、「保育所づくりをめざす実行委」などの専門部会が発足した。

翌年1972年11月11日には、「日本列島改造論」が吹き荒れる中、実行委員会方式で西山卯三代表幹事を招いて、「西山卯三講演会—私達の住まいと町づくりの思想」を開催し、400名を超える参加者で大きな熱気に包まれた。

1973年6月の第2回総会では設立時の3倍の52名の会員となり、新建の理念と意義を明確にするために「技術は誰のために、何のために」が議論され、支部の民主的運営、機関紙部の確立が提起された。そして第1回全国研究集会での「科学的な民主的国土建設をめざし、点検、構想、実践の3つの運動を早急におこそう」のアピールに応じて、福岡での専門部会での活動を集約し、新建の活動を内外に知らせるために10月には「第1回福岡まちづくりシンポジウム」が開かれた。この中では「底辺の住まい、無断住宅に関する研究」、「路面電車廃止反対の運動」、「高速道路建設問題」、「障害者とまちづくり」、「幼稚園づくり」、「農村住宅」が報告された。暮れには、「住民・自治・環境学習会」と共催で「大ぼうねんまつり」が開催され、60数名の男女が餅つき、やみ鍋、ダンスに嵌めをはずした。

1974年12月の第3回支部総会では、幹事会の定例化、事務局の確立、班の再編、研究部会など組織整備の課題が検討された。

1975年7月には建築家の山口文象氏（戦前の創宇社を設立）を招いて、講演会「山口文象建築を語る—近代建築の流れを追って」がやはり実行委員会方式で開催され、240名の参加者を得て成功させた。この実行委員会方式は「福岡方式」として全国で評価されるようになった。例会では「建築と土木の接点」、「北九州図書館、美術館見学」、「大分県中部地震と耐震設計」、「県庁移転問題」など時機にかなったテーマが取り上げられた。秋のレクレーションでは「雷山沢登り」、「大ソフトボール大会」なども行われた。

1975年12月の第4回支部総会では、設立年間の運動の総括が行われ、9つの目標が定められた。即ち、①仲間を誘い合う新建、②知り合い、仲良くなれる新建、③住民主体の施設づくり・まちづくりへの標榜、④構想できる新建、⑤集団による学習と研究、⑥全国の経験・蓄積の報知、⑦建築団体としての社会的地位の獲得、⑧官公庁技術者会員拡大、⑨実践する指導部づくりである。6年目の活動で特筆すべきは、組織運営や企画運営について科学的な検討が行われ、それまでの幹事会、常任幹事会の二重構造を廃し、適正規模の幹事会の確立と運営委員会の創設である。

1976年9月には建築家・大谷幸夫氏の講演会「建築を語る—都市に生きる建築を求めて」が福岡方式で取り組まれ410名の参加を得た。また、火災による大惨事を引き起こした熊本大洋デパート、熊本県立美術館の見学、住田昌二先生を囲む会、1級建築士講座、入会のしおり作成など多彩に取り組みされた。

1977年はやや中だるみの感が見られるが、坂田展甫九大教授を囲む会、技術講座、ソフトボール大会などが行われたが、一方では地域割による班活動が活発化した。

1978年はこの間取り組んできた「実務体制の定着化」と「建築とまちづくり」誌の読者拡大に重点を置くと共に「技術講座・防水」、花見、平尾台ハイキング、ソフトボール大会、近代建築史学習会など地道に取り組まれた。

1979年7月には大講演会「磯崎新・建築を語る一幾何学・詩・空間」が同じく福岡方式で取り組まれ、390名の参加を得た。10月には会員の日常業務の交流与評価を目指した初めての建築展を開催した。また、「県庁舎の保存再生を進める会」による長谷川堯講演会への協力、「技術講座・防水」の開催や組織運営の面では幹事会に書記局を設け、実務の専念化を図り、全国から注目された「財政の健全化」に取り組み、建まち委員会が新設された。

10年目の1980年9月には、初めての全国企画「第9回全国研究集会」の福岡開催という最大のイベントに取り組み、大成功を収めるとともに10年誌の編纂事業を達成した。この2つの事業を通して新旧会員の協働が実現し、支部の底力を強固なものにした。



**(参考資料) 日本における建築運動の歩み** (近代日本建築運動史 (本多昭一著・ドメス出版) より抜粋)

明治以降、近代的な建築産業の勃興とともに大量の建築技術者が生まれてきたが、これらの技術者が集団として自らの技術に関わる社会的活動を展開するのを建築運動と考えると、明治時代の「造家学会」、大正時代の「分離派建築会」、「創宇社」などいくつかの集団の活動を見ることができる。昭和に入ってこれらの小グループのほとんどを結集して結成されたのが1930年の「新興建築家聯盟」であった。しかし戦前の軍国主義の世の中であったために危険思想の団体というレッテルが貼られてあっさりと解散に追い込まれた。その後、「日本青年建築家聯盟」後に「建築科学研究会」と改称され、その後解散して新たに「青年建築家クラブ」が結成されるが、やはり特高によって潰された。その後、天皇制政府公認の「日本工作文化聯盟」が結成されたが権威主義的で自由な運動ではなかった。

戦後、西山卯三が中心の「関西建築文化連盟」はじめ「日本建築文化連盟」、「日本民主建築会」、「住文化協会」などが生まれ、これらが結集して1947年に「新日本建築家集団」(NAU)が結成された。初年度150名であったが翌年の第2回総会では469名に増え、綱領、活動方針、規約改正などが決定された。綱領には前文に「我々の建築運動は過去の運動の遺産を受け継ぎ、さらにそれを現在の情勢の中で発展させ、「日本人民による民主日本の建設」に建築技術者として参加しよう」と書かれ、以下の6項目の方針を掲げていた。

1. 建築を人民のために建設し人民の建築文化を創造する。2. 建築についてのすべての問題を大衆の中で解決し、実践する。3. 建築界全般を覆う封建制と反動性を打破する。4. 建築技術者の解放と擁護のために闘う。5. 全国にわたる建築技術者の組織的結集を実現し更に海外の建築技術者の進歩的運動と提携する。6. 人民文化建設のために闘うすべての運動と協力する。

その後、順調に研究会の開催や、ニュースの発行があり、1949年の第3回総会では綱領を行動綱領に改訂して、前文はほとんど変わらないが、以下の7項目を掲げた。

1) わたしたちの技術を大衆の生活をまもる武器にしよう。2) いつも高く正しい技術を持つことに努力しよう。3) 民族の伝統を正しく認識しよう。4) 封建制を打ち破り、反動化とたたかおう。5) 専門や職場がちがっても、お互いに生活をまもりあって進もう。6) セクト主義をやめて大きく団結しよう。7) 世界の民主的文化運動と手をにぎろう。

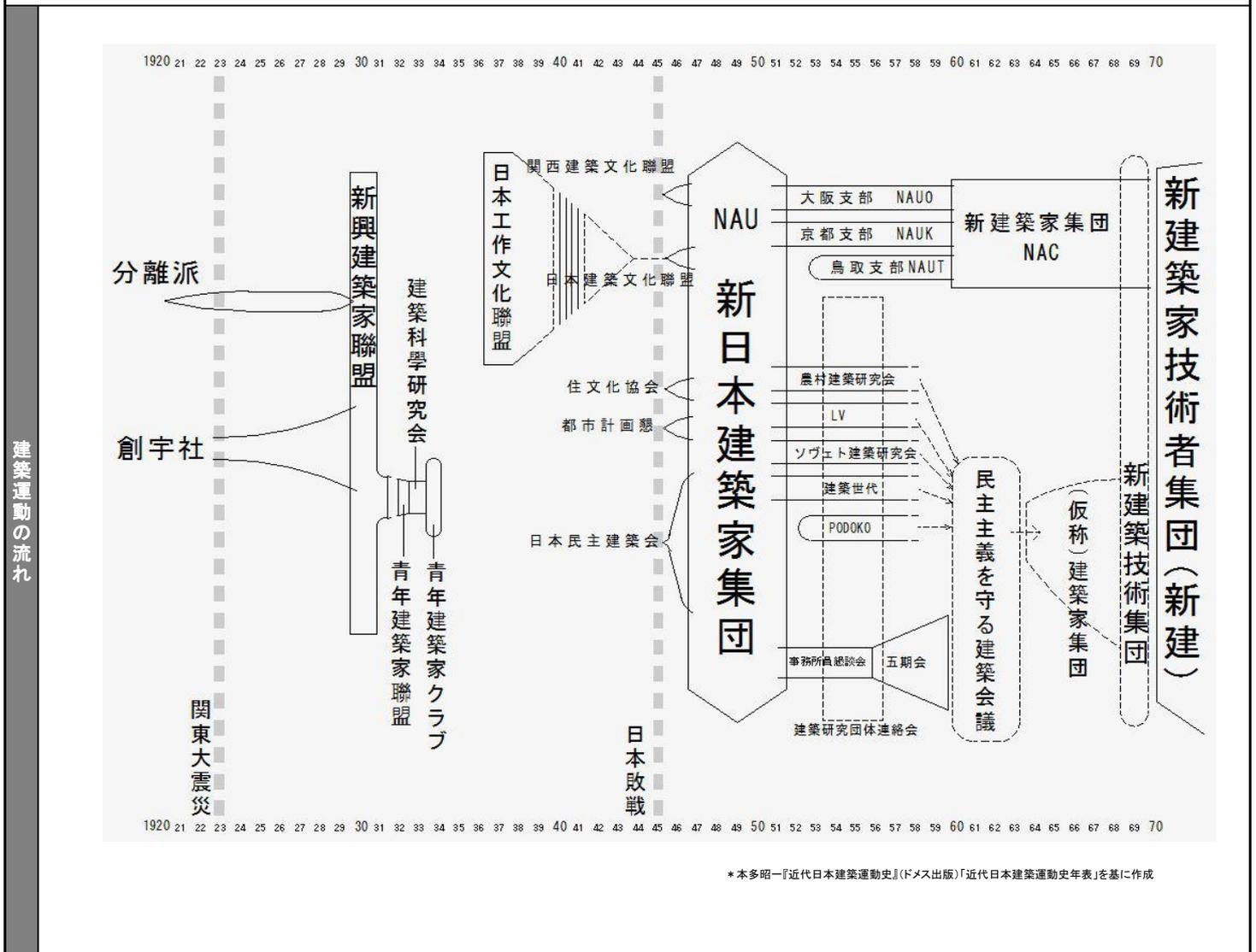
この頃、会員数は800名を超え、東京、大阪、京都、広島、新居浜など地方都市にも広がった。この第3回総会以後1年間が機関紙「NAUM」が出され、ニュースや連続講座の開催など最も充実した活動が展開された。その後、4年目の活動では「NAU設計委員会の発足」とその選定による「八幡労働会館」の設計が行われたりしたが、1951年の第5回総会以後、停滞し、全国組織としての動きが無くなった。1951年9月にサンフランシスコ講和会議が行われ、対日平和条約が調印され、翌年発効の後、日本が独立したので、それまではアメリカ占領下での運動であった。1950年からの朝鮮戦争による特需景気で日本の産業が活性化して、建設業も多忙になってきたことなどが運動に影響を及ぼしたと考えられている。NAU本部組織の消滅の後、部会や支部組織は活動が続けられていたところもある。朝鮮戦争は1953年7月に休戦となったが、1954年に「建築研究団体連絡会」（建研連）が農村建築研究会、LV、建築世代など10団体（その後12団体）の連絡組織として結成された。

上記3団体はNAUの部会として活動していた団体である。建研連は国際建築学生会議への代表派遣や国会図書館コンペ問題などを契機に結成され、活動報告と運動の総括をした「建築をみんなで」という貴重な文書を発刊するなど一定の成果を上げたが1956年頃には消滅した。その後、建研連所属の「建築事務所懇談会」（所懇）や「現代史研究会」の会員の一部が東大の丹下研究室、池辺研究室、前川國男建築事務所のメンバーと一緒にあって、1956年「五期会」が結成され、設計体制の変革、建築家の職能問題、コンペ問題などに取り組まれたが1960年頃には活動は停止した。

NAU本部消滅後、大阪支部（NAUO）、京都支部（NAUK）は活動を続け、1953年に新たに鳥取支部（NAUT）が結成され、この3支部が主体で関西を中心に1960年に「新建築家集団」（NAC）が結成された。一方、NACの働きかけで東京にもNAUの伝統を引き継ぐ組織として「（仮称）建築家集団」が結成されたが、万博問題で分裂し、新たに1969年に「新建築技術者集団」が結成された。この「新建築技術者集団」が建築運動の全国組織づくりに力を入れ、関西のNAC、京都の「建築土木技術者交流会」（BEC）、「神戸建築技術者交流会」、名古屋の「計画者グループ」と連絡を取って「新建築運動統一準備会」が開始され、その後、福岡の「住民・自治・環境学習会」、「群馬建築技術者集団」、名古屋の「建築を志す若人のグループ」をはじめ広島、島根、三重、岐阜、福井、石川、北海道等のグループも加わり、ついに1970年12月6日に東京で現在の全国組織「新建築家技術者集団」が結成された。

# 新建築家技術者集団のあゆみ (全国編)

		1920～設立前										
		1920年代	1930年代	1940年代	1950年代				1960年代			
政治経済	内閣				吉田内閣	鳩山内閣	石橋内閣	岸内閣	池田内閣	佐藤内閣		
	できごと	・国際連盟加盟 ・関東大震災 ・普通選挙制定 ・治安維持法	・満州事変 ・国際連盟脱退 ・日中戦争	・太平洋戦争	・原爆 ・日本敗戦 ・日本国憲法公布	・朝鮮戦争 ・サンフランシスコ講和条約	・十勝沖地震 ・水俣病発生 ・自衛隊発足	・日ソ国交回復 ・国際連合加盟	・伊勢湾台風	・安保闘争 ・水俣病原因説明	・新潟地震 ・イタイ病発生	・ベトナム空爆開始 ・松代群発地震 ・文化大革命
建築界	政策	・市街地建物法 ・同潤会設立		・住宅営団	・建築基準法 ・建築士法施行 ・住宅金融公庫設立	・新住宅市街地開発法公布	・日本住宅公団設立	・日本道路公団設立	・農業基本法 ・容積率制限導入	・建築士会連合会設立		・都市計画法
	動向・プロジェクト		・帝室博物館コホ	・大東亜建設記念 ・在ハンコク日本文化会館コホ ・建築学会「大東亜建築様式」座談会、アンケート	・フレモス(前川國男)	・世界平和記念聖堂(村野藤吾) ・立体最小限住宅(池辺陽) ・SH-1(広瀬謙二)		・晴海高層住宅 ・東京タワー	・千里NTまちびらき	・建築学生会議 ・国立代々木競技場		・第1期住宅建設5ヶ年計画 ・霞ヶ関ビル
	建築学会賞											



		第1期													
		1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	
政治経済	内閣			田中内閣		三木内閣		福田内閣		大平内閣		鈴木内閣		中曽根内閣	
	できごと	・よど号ハイジャック	・トルソック	・沖縄復帰 ・日中国交正常化 ・列島改造論	・石油ショック ・円変動相場制へ ・ベトナム戦争終結	・ウォーターゲート事件		・ロッキード疑獄		・日本が世界最長寿国に ・成田空港開港 ・宮城沖地震	・スリーマイル島原発事故 ・サッチャー政権発足	・過疎白書	・臨調行革スタート		
建築界	政策		・総合設計制度	・工業化住宅性能認定制度	・優良住宅部品認定制度	・W-ハイフォーのオープン化 ・日影規制		・建築基準法日照改正 ・三全総		・地区計画制度 ・省エネ基準	・新耐震基準 ・日本住宅公団廃止 ・住宅都市整備公団発足				
	動向・プロジェクト	・大阪万博	・多摩NT入居開始	・広島元町高層団地		・港北NT事業開始					・大川端リハビリティ		・日本住宅会議発足 ・ホテルニュージャパン火災		
	建築学会賞	・佐賀県立博物館 ・桜台コートビル	・ホーラ五反田ビル ・未完の家		・所沢聖地霊園の礼拝堂と納骨堂 ・北海道開拓記念館	・倉敷7ビルスエーデン ・最高裁判所庁舎 ・瀬戸内海歴史民俗資料館	・群馬県立近代美術館 ・新宿三井ビル ・水戸六番池団地	・善光寺別院願王寺 ・田野畑村立田野畑中学校及び寄宿舎 ・フロムファーストビル	・国立室戸少年自然の家 ・成城学園 ・東京都立夢の島総合体育館		・資生堂アートハウス ・芦屋浜高層住宅 ・住吉の長屋 ・松川ボックス	・生闘学舎	・大阪芸術大学塚本英世記念館 ・芸術情報センター ・神戸市中央病院 ・名護市庁舎 ・長野市立博物館	・金沢工業大学キャンパス北校地 ・佐賀県立九州陶磁文化館 ・新宿NSビル	
新 建	全国大会	設立総会 東京	第1回 東京	第2回 京都	第3回 名古屋	第4回 浜松	第5回 東京	第6回 湯河原	第7回 大阪	第8回 岐阜	第9回 神戸	第10回 東京	第11回 京都	第12回 出雲	
	研究集会			第1回 京都	第2回 東京	第3回 神戸	第4回 金沢	第5回 大阪	第6回 仙台	第7回 名古屋	第8回 千葉	第9回 福岡	第10回 静岡	第11回 前橋	
	建まちセミナー・新築学校						第1回 戸隠	第2回 戸隠	第3回 戸隠	第4回 戸隠	第5回 戸隠	第6回 西宮 東京	第7回 京都 鎌倉	第8回 千葉	
	綱領・声明	綱領制定		・幹事会声明「環境問題について」 ・幹事会声明「ベトナム問題について」 ・第3回大会特別決議(中之島保全・京都民主府政・ベトナム建築家招請) ・第4回大会決議(6決議)				・第6回大会特別決議(自由と民主主義)			・第8回大会決議(職能確立・欠陥建築・地域の建築活動・有事立法反対)			・第11回大会特別決議「行革」反対声明 ・第11回大会7ビル「障害者を含むまちづくり」	
	出版				『科学的な民主的国土建設をめざして』(新刊)										
	新建築														
	機関誌(『建まち』)		『新建築』創刊編集委員長 松井昭光						『新建築』から『建築とまちづくり』に誌名変更					『建まち』月刊化(第9回大会決定)	
	運動・取り組み	設立準備会(大阪・東京・京都)	・開学連行動7ビル ・「日照権を考える小集会」(4回:東京) ・中之島再開発構想、市民の反発	・事務局長ベトナム視察 ・日本建築家ベトナム友好訪問団(広原団長)	・シホ「設計事務所はどこへ行く——中小設計事務所の実態と将来」 ・「NAU創立25周年記念シホ」 ・大阪支部「住宅政策の空間化」(『新建築』に発表) ・兵庫支部「北野保全修景計画」(『新建築』に発表) ・「有松町づくりの会」発足 ・「北野界わいを守る会」発足 ・「全国町並み保存連盟」発足(有松町、今井町、妻籠宿)			・討論集会「建築設計事務所の現状とゆくえ」(東京) ・飯田濠で「建築とまちづくり祭」 ・岐阜支部「県内設計事務所と建設業者のアンケート調査」 ・飯田濠を守る会発足 ・「飯田濠を守る会」全国大会で支援要請			・飯田濠「せせらぎ計画」 ・中之島保存プラン				
	主な企画		新建築まつり(東京)	新建築まつり(京都)	第1回海外(ヨーロッパ)視察旅行	第2回海外視察旅行(住田団長)	東京・神奈川支部新築学校	第3回海外視察旅行							・建まち展「この東京をどうする」
	支部設立	大阪 三重	福岡・兵庫 広島・熊本 京都・福井 愛知・静岡 東京・宮城 石川	岡山 島根 長野 群馬		神奈川 千葉	富山 岐阜					埼玉 山梨	滋賀 北海道		
組織動向	代表幹事 上林博雄～04 西山知三～94 平松義彦～80 高橋事務局長		代表幹事 武基雄～02				永橋事務局長	山本学治逝去				平松義彦逝去			

		第2期												
		1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	
政治経済	内閣				中曽根内閣	竹下内閣		宇野内閣 海部内閣		宮沢内閣		細川内閣	羽田内閣 村山内閣	
	できごと	・日本海中部地震	・電電公社民営化 ・長野県西部地震	・つくば万博 ・プラザ合意	・三原山噴火 ・チェルノブイリ事故	・国鉄分割民営化 ・地価暴騰	・リクルート事件	・天安門事件 ・消費税導入 ・ベルリンの壁崩壊	・東西ドイツ統一	・ソ連崩壊 ・イラク空爆 ・バブル崩壊			・北海道南西沖地震	・三陸はるか沖地震
建築界	政策	・HOPE計画				・斜線制限緩和 ・四全総				・定期借地権制度 ・大店舗法 ・新省エネ基準	・用途地域細分化 ・都市マスタープラン ・新ゴールドプラン ・新省エネ基準	・地下室の容積不算入 ・PL法制定 ・特優賃住宅制度 ・ハートビル法制定		
	動向・プロジェクト			・つくば万博	・六甲アイランド事業開始				・熊本保田窪団地	・香椎ネクスワールド				
	建築学会賞		・釧路市立博物館 ・佐野市郷土博物館 ・藤沢市秋葉台文化体育館	・球泉洞森林館 ・シルバーハット ・眉山ホール	・田崎美術館 ・目神山の一連の住宅	・龍神村民体育館		・キンクラガ大阪 ・東京都多摩動物公園昆虫生態館	・数奇屋邑 ・House F ・広島市現代美術館	・東京都庁舎 ・東京武道館 ・沖繩キリスト教短期大学 ・浪合学校	・古河歴史博物館と周辺の修景 ・シヤーフ労働組合研修レクリエーションセンター ・ネクスワールド・レム・コルハース棟	・海の博物館 ・ダイキン・オート・シエル・パル科 ・東京都立東大和療育センター ・NTSシステム総合研究所	・阿品の家 ・熊本県草花農産研究所 ・用賀A7フラット	
新 建	全国大会	第13回 仙台	第14回 川越	第15回 名古屋		第16回 伊香保		第17回 大阪		第18回 福岡		第19回 奈良		
	研究会	第12回 岡山	第13回 大阪	第14回 富山	第15回 広島		第16回 岐阜	第17回 大阪	第18回 福岡	第19回 静岡		第20回 小布施		
	建まちセミナー・新建築学校	第9回 東京 神戸	第10回 塩山 彦根 つなぎ	第11回 松本 京都 札幌 福岡	第12回 横浜 神戸	第13回 京都 仙台	第14回 水戸 奈良	第15回 姫路 栃木 九州	第16回 富山	第17回 鎌倉 北海道 和歌山	第18回 鴨子	第19回 高山		
	綱領・声明		・第二国立劇場要望書(幹事会)					行動綱領 (第17回大会)		・幹事会声明「中東湾岸戦争・・・反対」 ・常幹声明「小選挙区制導入に反対」 ・大会決議「PKO協力法……反対」			・常幹声明「建築界の悪しき流れを断ち切ろう」	
	出版				実践報告集第1版	実践報告集第2版		実践報告集第4版	『生活派建築宣言』(新建)					
	新建築				第1回新建築賞 五十嵐敬喜	第2回新建築賞 大賞なし		第3回新建築賞 京都支部					第4回新建築賞 大賞なし	
	機関誌 (『建まち』)	編集委員長 三沢浩		100号記念特集									200号記念特集 (199～201号)	
	運動・取り組み		・飯田濠再開ビルオープン				・「京都計画88」発表(京都支部)	・JR京都駅ビル改築計画に関する公開質問状 ・「歴史都市京都の景観を守るための緊急提言」京都支部	・「市民のための京都駅設計案」発表 ・京都駅市民提案	・送り火アセスメント			・「銅奈駝地域のまちづくり提案」 ・設計協同フォーラム設立	
	主な企画						・「京都のまちづくり憲章運動始まる」 ・「東京臨海部開発」批判と提言	・9月:20周年記念シンポ(大阪) ・11月:20周年記念シンポ(東京)	・北海道支部設立10周年講演会 ・海老原一朗先生を偲ぶ会(千葉) ・黒崎さんの受賞を祝う会	・ヨーロッパ視察旅行			・ブロック会議が開催される(東北・北陸・東海)	
	支部設立	鹿児島 岩手 秋田 青森												
組織動向					代表幹事 海老原一郎 ～91				海老原一郎逝去	全国事務局新宿へ移転	細野事務局長	西山卯三逝去		

		第3期																
		1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
政治経済	内閣		橋本内閣		小淵内閣		森内閣	小泉内閣					安部内閣	福田内閣	麻生内閣	鳩山内閣	菅内閣	
	できごと	・兵庫県南部地震 ・地下鉄サリン事件		・京都議定書採択 ・消費税率UP ・長野オリンピック		・東海村臨界事故	・三宅雄山大噴火 ・介護保険制度開始	・省庁再編(国交省発足) ・米同時多発テロ		・イラク戦争	・新潟県中越地震	・福岡県西方地震 ・JR福知山線脱線事故	・能登沖地震 ・新潟県中越沖地震		・岩手宮城内陸地震			
建築界	政策	・住宅金融公庫法改正	・公営住宅法改正		・建築基準法大改正	・都市計画法改正 ・まちづくり三法	・都市再生特別措置法					・景観線三法施行	・改正基準法					
	動向・プロジェクト		・第7期5ヶ年計画		・次世代省エネ基準		・マンション建替え円滑化法		・第8期5ヶ年計画			・表参道ビルス ・茅野市民館	・蕨の浦訴訟					
	建築学会賞	・塔の家から阿佐ヶ谷の家 ・リアスアーク美術館 ・熊本県堂竜蛇平団地	・黒都市国際文化センター ・日本橋の家 ・植村直己冒険館 ・彩の国さいたま芸術劇場	・登米町伝統芸能伝承センター ・千葉市立打瀬小学校 ・佐木島プロジェクト	・川上村林業総合センター ・岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー ・ふれあいセンターいずみ ・新国立劇	・新潟博物館 ・高知県立中芸高等学校格技場 ・クラスハウス(グリーンヒルズ津山)	・ビッグハレットふくしま ・夏月居	・東京国立博物館法隆寺宝物館 ・熊本県立農業大学校学生寮 ・中島ガーデン	・公立ほこだて未来大学 ・W-HOUSE ・地下鉄大江戸線飯田橋駅	・苓北町民ホール ・せんだいバティアーク ・ひらたタウンセンター	・国立国会図書館関西支店 ・ホーラ美術館 ・福島県立郡山養護学校	・積層の家 ・プラダ青山店	・金澤21世紀美術館 ・北上市文化交流センター ・富弘美術館	・武蔵工業大学新建築学科棟 ・ふじようちえん	・神奈川工科大学KAIT工房 ・日本盲導犬総合センター ・コラス・G・ハイクセンター	・洗足の連結住棟 ・岩見沢複合駅舎		
新 建	全国大会	第20回 千葉		第21回 半田		第22回 仙台		第23回 松本		第24回 静岡		第25回 富山		第26回 大阪		第27回 浦和		
	研究集会		第20回 遊賀		第21回 浦和		第22回 東京		第23回 神戸		第24回 岡山		第25回 横浜		第26回 奈良		第27回 福岡	
	建まちセミナー・新築学校	第21回 神戸	第22回 伊香保	第23回 角館	第24回 京都	第25回 立山	第26回 大阪	第27回 上越妙高	第28回 飛騨古川	第29回 軽井沢	第30回 近江八幡	第31回 札幌	第32回 犬山	第33回 千葉	第34回 軽井沢	第35回 伊豆	第36回 東京	
	綱領・声明	・代表幹事、フランス・中国へ核実験抗議書		・常幹声明「建築基準法改正に反対し、.....建築技術者の社会的役割の確立を求める」	・22回大会特別決議(4決) ・「持続可能な生活空間のために」代表幹事アピール		・「新建築憲章」制定	・政策委員会「景観法に対する見解」	・「構造設計偽造問題に関する声明」						・27回大会特別決議 ・幹事会声明「東京・大阪中央郵便局庁舎の保存問題に関する声明」 ・全国幹事会「建築業界の裏金体質を一掃しよう」			
	出版			「都市と住まい」(西山卯三・新刊)														
	新建築賞		第5回新建築賞 象地域設計										第6回新建築賞 本多昭一		第7回新建築賞 萩原幸		第8回新建築賞 黒田達雄	
	機関誌(『建まち』)		「ワーク&ワーク」連載開始 編集委員長 丸谷博男			「建築運動史」(本多)連載開始			300号年間特集「木の国日本」									編集委員長 鎌田一夫
	運動・取り組み	「建築とまちづくり震災支援ネットワーク」設立(530件の1次診断実施) ・堀川に清流をよみがえらせる会(京都) ・松代平和祈念館建設運動(長野) ・三都フォーラム ・欠陥住宅110番の活動(宮城)始まる		・京都「ホンテ・ザル」反対運動			・「住まいづくりフォーラム」発足(千葉)		・滋賀支部「豊郷小学校改築計画の再検討の要望」 ・「奈良駅舎再生計画案」(奈良支部) ・「富山の木の家」コンペで会員が優秀賞	・「有事法制への反対決議」(京都) ・シンポ「建築運動とデザイン思潮」(東京)	・「富山市景観まちづくり条例を考える集い」(福井) ・シンポ「超高層マンションを考える」(大阪) ・シンポ「大規模開発と住民主体のまちづくり」(東京)				・「東京中央郵便局庁舎保存問題に関する見解」(東京支部)			
	主な企画	・富山支部設立20周年セミナー		・北海道「雪のセミナー」		・第1回埼玉・群馬合同実践報告会	・設立30周年記念レセプション(東京)		・埼玉新建築学校(今村)	・シンポ「.....まちづくり...大学との連携...雑木林との共生...」(福井)				・ヨーロッパの近代建築をめぐる旅			・青森支部再建5周年記念 ・秋田支部三沢代表幹事講演会	
	支部設立							鹿児島支部設立総会(再建)			青森(再建)						北陸協議会発足(福井、石川、富山)	
組織動向	代表幹事 本多昭一	千代崎事務局長	代表幹事 三沢浩		代表幹事 田中恒子~07 中島明子 山本事務局長		WEB委員会発足、新築HP開設	武基雄逝去	・住まい連へ正式加盟 今村事務局長								上林博雄逝去	

発行日	2012年10月26日
編集・発行人	新建築家技術者集団福岡支部事務局 福岡市南区野間 3-9-20-4F 〒815-0041 ケイ・プラッツ内 Tel/Fax 092-541-8128 <a href="http://www.shinken-fukuoka.net/">http://www.shinken-fukuoka.net/</a>
編集委員長	伊集院豊麿
委員	新谷肇一 古川博 鹿瀬島隆之 福岡支部会員一同
Special Thanks	新建築家技術者集団